

No. 10 >>> Contents

●年頭所感

- 「高校3年生」・・・財団法人大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
センター長 高木 賢 ————— ①

●提携支援センターから

- 西陣産地 ^{いにしえ} 古への回帰 - 「純国産絹織工房」の開設 -
・・・・・・・・・・・・・・・・西陣織工業組合 専務理事 碓山 俊光 ————— ②
- 世界遺産登録を目指す富岡製糸場で「純国産絹製品展」を開催
・・・・・・・・・・・・・・・・社団法人 日本絹業協会 ————— ⑧
- 提携支援センター活動日誌 No. 10 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ————— ⑫
- 純国産絹マーク使用許諾について（平成21年度第4次分）・・・・・・・・・・ ————— ⑬

●今月の話題

- 2009 中国国際シルクフォーラムに出席して（最新中国シルク事情の紹介）
・・・・・・・・・・・・・・・・社団法人 日本絹業協会 ————— ⑮

●国内情報

- 熱き想いを語っていただいた「蚕糸絹文化シンポジウム」・・・・・・・・・・ ————— ⑮
- 日本絹文化シンポジウム「絹で奏でる音世界」
・・ 伝統的工芸品産地プロデューサー 株式会社 エムアンドカムパニイ
代表取締役 菊池 優希 ————— ⑲
- 福島県の養蚕の歴史と目指す方向 ～今が旬・ふくしまの繭～
・・・・・・・・・・ 福島県農林水産部園芸課 主幹兼副課長 目黒 友 ————— ⑳

●海外情報

- ’09年広西壮族自治区の蚕糸業見聞録
・・・・・・・・・・・・・・・・東京農工大学 名誉教授 黄色 俊一 ————— ㉑

●トピックス

- 国内産地情報、海外情報（中国）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ————— ㉔

●横浜開港とシルク貿易

- 横浜村の様子と生糸貿易の始まり・・・シルク博物館 元部長 小泉 勝夫 ————— ㉖

●イベント情報 ————— ㉙

●純国産絹マーク使用許諾者一覧 ————— ㉚

●蚕糸関係団体ホームページ一覧 ————— ㉜

●統計資料 ————— ㉝

（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）



「 高 校 三 年 生 」

財団法人大日本蚕糸会
蚕糸・絹業提携支援センター
センター長 高 木 賢

舟木一夫の「高校三年生」がはやったのは、私が高校を昭和 37 年に卒業した後の昭和 38 年であった。その年の夏休みに北海道へ友人 2 人と旅行に行って、洞爺湖畔のユースホテルに泊まっていたとき、ボリュームいっぱいこの歌がホテルの中に流れてきたのであった。ホテルの従業員の中に、この歌に魅せられた人がいたらしい。私は、その時初めてこの歌を聴いたのであるが、たちどころにこの歌の軽快さに引き込まれ、また、リズムカルな歌詞に、その日のうちに覚えてしまった。同時に、すでに高校を卒業してしまったことを残念に思った。2 年前なら、リアルタイムでこの歌を歌えたのにという思いもこみ上げてきた記憶がある。

歌詞の中で、今でも心に残るのは、三番の「残り少ない日数を胸に、・・・」というくだりである。卒業を前にして、残り少ない 1 日 1 日をいとおしむせつない気持ちがよく表現されている。実際の私の「高校三年生」のときは、大学受験を直前にして、1 日をいとおしむどころか、ただひたすらに受験勉強に邁進していたので、そのときこの歌がはやったとしても、同感していたか否かは別である。しかし、受験勉強だけではないそれなりの内容のある高校生活であったので、後で振り返ると、この歌の懐かしさが身にしみたというわけだ。

さて、長々と「高校三年生」について書いてきたのは、ほかでもない。いよいよ、我々蚕糸絹業関係者にとって、今年は、「高校三年生」の年を迎えるからなのである。平成 20 年に「蚕糸絹業提携支援緊急対策事業」が実施されてから早 2 年。いよいよ 22 年度からは「高校三年生」となって、年度末には卒業しなければならないことになったのである。高校生活の総決算をしなければならない年を迎えるわけだ。

「蚕糸絹業提携支援緊急対策事業」には留年はない。何が何でも、必要な単位をとって卒業しなければならない。同じころ、村田英雄の「王将」もはやった。ちなみに、その三番の出だしは、「明日は東京に出て行くからは何が何でも勝たねばならぬ」である。

西陣産地 ^{いにしえ} 古への回帰 — 「純国産絹織工房」の開設 —

西陣織工業組合

専務理事 碓山 俊光

千有余年の歴史と伝統を誇る『西陣』産地。

この西陣産地は、高度に発達した分業体制〈大別すると、図案・紋意匠図・紋彫くコンピュータ・グラフィックス〉・撚糸・糸染・整経・綜統〉のもと、研澄まされた感性と熟練した技術を有する匠達が、最高峰といわれる織物をつくり続けています。こうして生れた織物こそが『西陣織』なのです。

西陣織の総本山にあたる『西陣織工業組合』は西陣の殿堂といわれる地下2階・地上7階建の偉容を誇る『西陣織会館』を西陣地域の中心地（京都市上京区堀川通今出川南入）に構えています。

この西陣織会館内に先頃、「純国産絹織工房」を開設・オープンしました。地元メディアが大々的に取り上げてくれた効果もあってか、来館者の興味・関心も日増しに高まっているようです。

「純国産絹織工房」開設の背景

では先ず、「純国産絹織工房」開設の背景を簡単に記すことにします。

平成21年7月、『群馬県立日本絹の里』と、当『西陣織会館』が、姉妹友好会館を締結しました。

当会館はそれまで、桐生・博多・本場大島紬の各会館と友好会館を締結し、相互交流を図ることによって産地の発展を期して来しました。

ところが、近年、西陣織の原材料である生糸に品質の低下が見られ、品質の向上と

国産生糸の見直しを考察していたところ、(財)大日本蚕糸会の仲介で『絹の里』と知己を得、協議を重ねた結果＜蚕糸・製糸・絹業＞振興に向けた相互の理念が一致し、友好会館締結に至りました。



「蚕棚」(写真上)と、蚕の飼育から製織に使う絹糸が出来上がるまでの「工程パネル」(写真下)。下部の箱の中で桑の葉を与え、蚕を飼育する。

早速、『絹の里』で桑木・蚕に関するレクチャーを受け、桑木を西陣織会館周辺に植樹。栽培を始めました。「工房」開設に向けてのスタートです。

その後、蚕(カイコ)や蚕棚の提供・指導を得、「工房」の設置場所である西陣織会館2階の一角で蚕千頭以上の飼育を始め

ました。蚕は卵の時は黒く、幼虫となって飼料(桑の葉)を食べ、成長後、カイコの体が飴色に透き通ってきて白い繭をつくります。この神秘的な蚕を幼児・小中高生・一般市民にご覧いただいています。

こうした中、＜日本の絹＞マークでお馴染みの、そして蚕糸・絹業の総力を結集した純国産絹製品づくりを推奨されている(財)大日本蚕糸会からも指導・支援を得ることになりました。「工房」解説の準備は着々と進み、最後にジオラマ(立体模型)等も所定の位置に据え、ここに「純国産絹織工房」開設に向けての全ての準備が整ったのです。

オープニング

平成21年11月3日、期待と緊張感が高まる中、待望のオープン当日を迎えました。



オープニングセレモニーで、あいさつに立つ、高木賢大日本蚕糸会会頭。

オープニングセレモニーには、(財)大日本蚕糸会の高木賢会頭をお迎えし、京都府・市のご来賓、また当組合からは渡邊隆夫理



「純国産絹織工房」の看板と、テープカット（左から、渡邊隆夫西陣織工業組合理事長、松村明子京都府商工労働観光部染織・工芸課長、高木賢(財)大日本蚕糸会会頭、山本ひとみ京都市産業観光局商工部伝統産業課長、山崎清一郎西陣織工業組合副理事長）

事長らが列席し、テープカット。ジオラマの除幕式に続いて、「工房」の成功と盛況を誓って晴れやかにテープカットを行ない、オープニングを祝いました。

このあと、早早に来館者が「工房」に詰め掛け熱心に見学、「工房」の成功を約束されたかのような盛況振りでした。

「純国産絹織工房」開設

ー西陣織会館 2 階ー

「純国産絹織工房」は、西陣織会館 1・2 階に開設しました。

2 階では、神秘的な蚕の一生を写真パネルで紹介するとともに、蚕の飼育から繭になるまで（約 30 日で繭になる。）この繭から糸を採り（一粒の繭から約 1,300 m の繭糸が採れる）、これを座繰り機を使って糸

巻きをする（製織時、杼^ひという道具を使ってヨコ糸を通しますが、この杼の中に装着する糸を巻く作業）、を実演形式で行なっています。

また、その横ではつづれ機や手機の実演を行なうほか、希望者にはこれらの糸を使った＜ミニ手機体験コース＞＜繭に似顔絵を描く体験コース＞＜座繰りコース＞も用意しています。

さらに、ここで採れた絹糸を使って織り上げたネクタイやマフラー、グッズ、きものや帯を出展・販売するコーナーも設置し、純国産絹糸を使った西陣織製品の素晴らしさを P R しています。

ー西陣織会館 1 階ー

「純国産絹織工房」と関連し、ジオラマ



ジオラマの除幕式
(左から、渡邊理事長、山崎副理事長、松村染織・
工芸課長、高木会頭、山本伝統産業課長)。



＜蚕の一生＞や＜西陣織の生産工程＞等が映し出される映像機（モニター）。4区分のためボタン操作で好みの映像を選択する（写真上部）。モニターの下にあるのがジオラマ。スイッチオンする（財）大日本蚕糸会の草野常務。



＜養蚕・製糸工程パネル＞

（立体模型）や映像を使って解説するコーナーを設置しました。ジオラマは＜養蚕・製糸・加工・流通小売＞と、絹糸の生産から絹糸が実需者に渡るまでを表現した立体模型で、小・中学生でも十分理解できるものとなっています。

そのジオラマの上部に映像機（モニター）を設置。＜①絹仙人のお話し、②まゆができるまで、③生糸ができるまで、④西陣織ができるまで＞と4区分し（総所要時間：約18分）、神秘的な蚕の一生や西陣織の生産工程をわかりやすく、解説・紹介するほか、食品類や住環境の見直しなどエコロジー、健康志向が高まる昨今、吸湿性に優れ、肌触りの良い、人に優しい絹糸（シルク）は、衣生活、衣文化を形成するに相応しい素材であるとの映像・解説も流れています。

また、来館する観光客に絶大な人気を集める『きものショー』（1日・7回、連日開演）でも『純国産きものショー』と銘打ち、純国産絹糸を使って作ったきものを纏ってショーを上演し、PRに努めています。

さらに、幻の機といわれる『空引機』も展示しています。この空引機は明治5年、西陣の織工ら3人がフランスのリヨンに渡り、製織技術や機械（織機）・装置について1年間勉強・習得し、帰国に際し持ち返ったジャカード（デザインや組織が詰った紋紙（現在は、フロッピーディスクが主流）に連動し、通糸（タテ糸）を引き上げる装置）を導入・普及する前に使われていた機のことです。

空引機は、写真に見られるように織り前



幻の機「空引機」の実演風景（ＪＲ京都駅前広場・10/25）

で製織する織師のほかに、機の上部に人が登り、織師と呼吸を合わせながら通糸（タテ糸）を引き上げその間隙に緯糸（ヨコ糸）を通し、織り上げる機なのです。

一方、ジャカードはデザインや組織の緻密性、製織上の効率性と生産量を大幅に高めることを可能にし、これをいち早く導入した西陣産地と『西陣織』の名声を確認たるものにした画期的な装置といえます。

結びに

以上が「純国産絹織工房」開設をはじめとした概況です。

織物技術を極めた西陣産地は今後も切磋琢磨し、技術向上に努力を続けていきますが、いま一度ここで古き良き時代のものづくりを再考し、純国産絹糸を使った本もの

の製品づくりをしていきたい。新進・先取り精神旺盛な西陣人が、片や新製品・新分野へ挑戦する一方で、古への回帰にも取り組み、衣文化の、また和装文化の継承・発展・向上に尽力していきたいと考えています。

今後、生糸の品質低下や価格の高騰が懸念されます。これへの対抗としても、当組合傘下組合員には純国産生糸を使用し、さすが西陣といわれるグレードの高い品質づくりを心掛けてもらいたいと願っているところです。

西陣織会館では「純国産絹織工房」をはじめとした既述の実演等々のほか、＜京友禅の製作・西陣織ビロードの製織・枯渴道具類といわれる竹箴の製作＞などの実演も行ない、まさに染製品の殿堂の観（館）状況となっています。

当会館に年間約 70 万人の観光客が訪れ、小・中・高校生の修学旅行、また、課外学習の場としても高い評価を得ています。今回開設した「純国産絹織工房」は、その評価をさらに高めてくれることと確信しています。そして今ひとつ、桑・蚕・生糸は環境に優しい「エコ」として訴求したいと考えています。

入洛の際ご来館の上、＜純国産生糸を使ったミニ手機によるマフラーづくり＞＜座繰り＞＜繭で似顔絵＞等の体験をお薦めし

ます。また、「純国産絹織工房」や当館の実演・陳列品の数々をご覧ください、高度な手の技はもとより職人達のものづくりに対する姿勢、心意気を感じ取っていただきたい。ものづくりの素晴らしさを肌で感じ取っていただきたいものです。ご来館、お待ちしております。

最後になりましたが、「純国産絹織工房」開設にご指導・ご支援をいただいた(財)大日本蚕糸会と群馬県立日本絹の里にお礼と感謝の意を表します。



「純国産絹織工房」。純国産生糸を使って製織した製品を陳列・販売している（写真左・手前）。



手機の実演



日本の絹ギャラリー



純国産生糸を使った「ミニ手機」体験コース

世界遺産登録を目指す富岡製糸場で 「純国産絹製品展」を開催

社団法人 日本絹業協会

本展示会は、主に富岡製糸場を見学する人達、群馬県内の繭・生糸の生産者を対象に純国産絹製品の展示・即売を通じ、純国産絹製品の良さをアピールするために開催されたものです。

なお、この展示会は、(財)大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センターが実施している蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の一環として、(社)日本絹業協会(以下「絹業協会」という。)が開催したものです。

開催趣旨

本展示会は、「純国産絹マーク」の普及とともに今や希少となった日本の繭・生糸を素材につくられた純国産絹製品の良さや特徴をひろくPRすることを目的としています。併せて、日本の繭・生糸の生産が一番多い群馬県内で展示会を開催することで養蚕農家の方々に「蚕糸・絹業提携システム」の理解とそこへの参加を誘引すること

です。

会期及び会場

平成21年10月31日(土)～11月3日(火)に、世界遺産候補である富岡製糸場内のブリュナ館(群馬県富岡市富岡)において開催しました。

○平成21年10月31日(土)午前11時

群馬県、富岡市、農協関係者、養蚕農家等約80名の参加者を得て、開会式が行われました。高木賢絹業協会会長及び横尾繁雄富岡市教育委員会教育部長の開会の挨拶に続き、来賓挨拶として山口憲作群馬県蚕糸園芸課長及び茂木雅雄大日本蚕糸会副会頭理事が祝辞を述べました。その後、テープカットが行われ、純国産絹製品展が開幕しました。この開会式は群馬テレビ等で報道され大きな反響を呼びました。

出展企業及び出展絹製品の特徴



純国産絹製品展
テープカットの風景

出展企業は 16 社、そのうち、即売出展は群馬県内の 4 社、参考出展は 12 社です。その他に群馬県蚕糸技術センターからはカイコ（200 ～ 300 頭）、群馬オリジナル 7 蚕品種の繭、それら 7 蚕品種繭の説明パネル、また、絹小沢株式会社からは蚕棚、繭の入ったわら簇（まぶし）、回転簇（まぶし）、座繰器が展示されました。

今回の展示会では、純国産絹製品の製造販売を行う「蚕糸・絹業提携グループ」又は「純国産絹マーク」使用許諾者の中で

- ・ 代表的製品を展示しました。
- ・ 絹製品のどこに国産の良さがでているかを B 4 パネルで簡潔に特徴を説明し、アピールしました。
- ・ 絹製品に添付される「純国産絹マーク」には、製品の生産履歴が表示されていることを P R しました。

会場受付に絹業協会で作成した「出展目録」の他に、会場内には各社の製品の特徴を簡潔に記述した「製品概要パネル」などを展示して来場者に生産者が提携してすばらしい純国産絹製品づくりをしていることをアピールしました。また、来場者に対し、当協会は座繰の実演により、繭からどのようにして生糸になるか、生糸とはどのようなものかを解説するとともに、蚕糸・絹業の提携システム及び純国産絹マークの理解促進につとめたところです。

各社の展示等絹製品とその特徴は、次のとおりです。

- ・(株) 千總―「振り袖、訪問着、色無地他」(徹底した飼育管理による優良繭から繰糸した生糸を用いた絹製品。)
- ・(株) 銀座もとじ―「大島紬、結城紬、小紋他」(蚕品種「プラチナボーイ」繭から

繰糸した生糸を用いた男物きもの。)

- ・ **日本蚕糸絹業開発協同組合**—「白生地、胴裏、八掛地、長襦袢地」(群馬県の多様な蚕品種繭から繰糸した生糸を用いた生地にトルマリン加工、灰汁加工等を施した絹製品。)
- ・ **織匠 万勝**—「着尺、袋帯等」(優良繭から繰糸した生糸を用い、西陣織が持つ高度な技術の融合による絹製品。)
- ・ **(株) 伊と幸**—「白生地、色無地他」(蚕品種「松岡姫」「上州絹星」繭から繰糸した生糸を用いた絹製品。)
- ・ **(有) 織道楽塩野屋**—「緋、帯他」(京都府の色繭蚕品種「都浅黄及び黄白」繭を生繭繰糸した生糸を用いた絹製品。)
- ・ **(株) 小倉商店**—「結城紬」(蚕品種「朝・日×東・海」繭から繰糸した生糸を用いて開発した独自製品。)
- ・ **山音 (株)**—「三越、駒紬」(群馬県の繭に水撚り、先練りの技術を駆使した絹製品。)
- ・ **浅山織物 (株)**—「帯」(経糸は生染めで

日本太古の織物「倭文(しどり)」の再現を目指した帯。)

- ・ **荒川 (株)**—「帯締、帯揚」(蚕品種「ぐんま 200」の繭から繰糸した生糸を使用、伝統工芸士金井敬司の手組による帯締。)
- ・ **綾の手紬染織工房**—「先染着尺、ショール他」(蚕品種「小石丸」の繭を座繰り繰糸した生糸を用いた草木染め絹製品。)
- ・ **田中種 (株)**—「江戸小紋」(極小紋型・伊勢型による極型小紋。蚕糸・絹業提携システムによる絹製品。)

【即売各社の内容】

- ・ **富岡シルクブランド協議会**—スカーフ、ショール、マフラー、ストール等小物洋装絹製品。
- ・ **碓氷製糸農業協同組合**—サポーター、腹巻、石鹸、ローション、クリーム等小物洋装絹製品及び化粧品。
- ・ **(有) ミラノリブ**—「絹ニットスーツ、ショール、ストール他」(上州座繰り生糸による洋装絹製品。)



やはり純国産製品に関心を寄せる来館者



純国産絹製品展示風景

・門倉メリヤス（株）―「絹ニットコート、ストール、5本指靴下他」（太織度蚕品種「蚕太」繭から繰糸した生糸を用いた洋装絹製品。）

広報及び入場者

10月中旬に展示会のポスター、DMは群馬県を通じて農協、農家へ、また、日本絹の里、富岡製糸場を通じて来館者、富岡市内の商店等に配布してもらいました。

さらに、10月28日（水）に群馬県庁内の記者クラブで記者レクを行うことができました。その結果、地元の上毛新聞（平成21. 10. 29）、（平成21. 11. 2）読売新聞（平成21. 10. 30）において純国産絹製品展開催記事になりました。

今回の会場は、ユネスコ世界遺産暫定リストに登載されている富岡製糸場ということもあり、観光バス等での来客が多く、会期中4日間で3,360人もの展示会場への入場者がありました。入場者の中にはカイコを懐かしがる人、座繰りを自らしたがる人がかなりいました。

また、純国産絹マークの履歴表示、蚕糸・

絹業提携システムについて、「日本の蚕糸・絹業が生き残るためには必要なことだから、頑張ってください」と、激励する人も多くおられました。その他、「絹製品の値段はいくらか、どうしたら入手できるか」と質問する方もあり、丁寧に対応し、連絡先などをご案内しました。

純国産絹製品、純国産絹マークに関心を示す人が多数おられ、今回の富岡製糸場ブリュナ館における展示会はPR効果が非常に大きかったと思われます。

おわりに

本展示会を成功裏に開催・終了できたのは、ひとえに、共催の富岡市のご配慮による通常は入場できないブリュナ館の会場提供、群馬県蚕糸園芸課のご尽力によるパブリシティ（広報）、開会式等に対してのご協力、群馬県蚕糸技術センター、出展企業等関係各位のご協力の賜です。あらためて深く感謝申し上げます。

支援センター活動日誌No. 10 (H21.11.1 ~ H21.12.31)

年月日	活 動 内 容 等
21.11.3	純国産絹製品展示・P R コーナーに係るオープンセレモニー (京都市 西陣会館)
21.11.10	平成 21 年度 大日本蚕糸会蚕糸功労者表彰式 (東京都 東京會館)
21.11.18	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループ構築等の打合せ (群馬県前橋市)
21.11.25	(社) 日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
21.11.26	中国シルク標準化委員会訪日団打合せ (東京都有楽町 蚕糸会館)
21.11.30	蚕糸絹文化シンポジウム「地域が支える蚕糸絹文化」 (東京 東京會館)
21.12.4	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループ構築等の打合せ (福島県庁)
21.12.18	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る提携グループ構築等の打合せ (山梨県庁)



異色な新製品・シルクランプシェード (蚕糸絹文化シンポジウムより)

純国産絹マーク使用許諾について（平成 21 年度第 4 次分）

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 21 年度第 4 回審査会を 11 月 25 日（水）に開催しました。今回、28 件（うち、生産数量の追加申請が 13 件）から申請があり、審査委員会で審査した結果下記のとおり 28 件に対し、12 月 9 日（水）付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

この結果、純国産絹マーク使用許諾者は合計 110 社となります。（本誌の使用許諾者一覧参照）

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社北尾織物匠 代表者名 北尾 清常 京都市上京区上立売通千本東入下る 桐木町 880 (担当者：北尾 清常) TEL 075-441-6003 表示者登録番号 096	袋帯 なごや帯	25 本 100 本	繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 色 奥谷染色 製 織 自社
株式会社 平田組紐 代表者名 平田 晃 東京都豊島区長崎 4 丁目 1 2 番 2 号 (担当者：平田 晃) TEL 03-3959-2914 表示者登録番号 097	帯締 帯締 (金銀糸 5% 以上) 羽織紐 (男物) 羽織紐 (女物)	10000 本 7200 本 1000 本 1000 本	企 画 (有) いのうえ 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 J A 多野藤岡 管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 組加工 自社
株式会社 菱健 代表者名 古川 貴士 京都市中京区室町通三条下る烏帽子 屋町 479-1 (担当者：古川 貴士) TEL 075-241-1141 表示者登録番号 098	後染反物 (色無地)	200 反	繭生産 J A 碓氷安中 管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (有) 田永織物 染 色 自社
西野株式会社 代表者名 西野 宏 京都市上京区元誓願寺通大宮西入ル 元妙蓮寺町 542 番地 (担当者：西野 宏) TEL 075-441-7392 表示者登録番号 099	帯締 帯締 (金銀糸 5% 以上)	150 本 350 本	繭生産 J A 碓氷安中 管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 色 (有) 中島染工場 組加工 自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
京商株式会社 代表者名 安岡 菊枝 鳥取県米子市角盤町1丁目168 (担当者: 安岡 菊枝) TEL 0859-33-8488 表示者登録番号 100	後染反物 (色無地) (黒紋付)	10 反 10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 (株) 中田勝 制作企画 第一衣料(株)
株式会社猪井 代表者名 猪井 一之 新潟県長岡市柏町2丁目6番7号 (担当者: 猪井一之) TEL 0258-32-4927 表示者登録番号 101	後染反物	60 反	繭生産 茨城県南地区 養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房
株式会社たちばな 代表者名 近 文雄 新潟県新発田市中央町1丁目2番13号 (担当者: 近 文雄) TEL 0254-23-5288 表示者登録番号 102	後染反物	20 反	繭生産 茨城県南地区 養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房 制作企画 (株) 猪井
株式会社丸富美 代表者名 丸山 忠一 新潟県十日町市川治1812番地6 (担当者: 丸山忠一) TEL 025-757-1588 表示者登録番号 103	後染反物 (色無地)	20 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房 制作企画 (株) 猪井
株式会社絹もの屋まつなが 代表者名 松永 一義 新潟県三条市横町一丁目9番地14号 (担当者: 松永一義) TEL 0256-32-0101 表示者登録番号 104	後染反物 (色無地)	20 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 小林染工房 制作企画 (株) 猪井
株式会社山正山崎 代表者名 山崎 正平 愛知県豊橋市南栄町字空池8-100 (担当者: 山崎正平) TEL 0532-47-1101 表示者登録番号 105	後染反物 (色無地)	10 反	企画制作 (株) 千總 繭生産 岩手県北部・中部、青森県 八戸市養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 (株) 竹林、美雲織物(株) 染 色 (株) 千總
有限会社こくぶん呉服店 代表者名 國分 誠一 福島県福島市御山字三本松49-4 (担当者: 國分誠一) TEL 024-531-1331 表示者登録番号 106	後染反物 (色無地)	10 反	企画制作 (株) 千總 繭生産 岩手県北部・中部、青森県 八戸市養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 (株) 竹林、美雲織物(株) 染 色 (株) 千總
株式会社染織近藤 代表者名 近藤 典博 岡山県岡山市北区丸の内1-7-3 (担当者: 近藤典博) TEL 086-226-5298 表示者登録番号 107	後染反物 (色無地)	10 反	企画制作 (株) 千總 繭生産 岩手県北部・中部、青森県 八戸市養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 (株) 竹林、美雲織物(株) 染 色 (株) 千總

国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
株式会社宮川呉服店 代表者名 宮川 勝彦 北海道紋別郡上湧別町中湧別 5 6 1 (担当者：宮川勝彦) TEL 0158-62-2042 表示者登録番号 1 0 8	後染反物 (色無地)	10 反	企画制作 (株) 千總 繭生産 岩手県北部・中部、青森県 八戸市養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 美雲織物 (株) 染 色 (株) 千總
株式会社和らいふ 代表者名 土屋登巳雄 北海道札幌市中央区北 4 条西 1 3 丁目 1 番地 9 5 (担当者：土屋登巳雄) TEL 011-222-3833 表示者登録番号 1 0 9	後染反物 (色無地)	50 反	企 画 深田商店 繭生産 J A たむら・J A すかがわ 岩瀬管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 河芳織物 (有) 染 色 (有) 長坂
有限会社きものいなもと 代表者名 稲元 五郎 大阪市天王寺区堀越町 1 2 - 1 4 (担当者：稲元五郎) TEL 06-774-5298 表示者登録番号 1 1 0	後染反物 (色無地)	30 反	企 画 深田商店 繭生産 J A たむら・J A すかがわ 岩瀬管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 河芳織物 (有) 染 色 (有) 長坂
(生産数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名 小林幸夫 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 (担当者：土井芳文) TEL 027-361-2377 表示者登録番号 0 2 1	胴裏絹 白生地 長襦袢地 八掛 後染反物 比翼地	9350 枚 8100 枚 270 反 90 反 200 反 100 枚 500 枚 80 反 100 反	企画製作 絹小沢 (株) 蚕品種 世紀二一、ぐんま 2 0 0 新小石丸、ぐんま黄金、上州絹星 繭生産 安中市、富岡市など群馬県内 養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (有) 長島織物、丸進機業 (株)、 山直織物 (株) 坪金工業 (株)、 (株) カプト、南久ちりめん (株)、 (株) ワタマサ、江原産業 (株)、 番國 (株)、渡辺絹織物 精練加工 (有) 江島屋染工場 染加工 吉岡染工、(株) 京都紋付 整理加工 キヌテック (株) (株) パールトーン
(生産数量の追加) 株式会社さが美 代表者名 小野山 晴夫 横浜市港南区下永谷 6 丁目 2 番 11 号 (担当者：小野山晴夫) TEL 045-820-6000 表示者登録番号 0 3 1	後染反物 (冬用黒紋付) (夏用黒紋付)	200 反 200 反	繭生産 J A 新田郡管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (有) 両輪産業、 小熊機業 (有) 染 色 (株) 橘一
(生産数量の追加) 株式会社高島屋 代表者名 鈴木 弘治 東京都中央区日本橋 2 丁目 4 番 1 号 (担当者：鈴木弘治) TEL 03-3211-4111 表示者登録番号 0 3 0	後染反物 (振袖)	330 枚	繭生産 那須南農協管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 美雲織物 (株)、(株) 竹林、 (株) 松浦絹織、河藤 (株) 染 色 (株) 千總

国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産数量の追加) 有限会社大善屋呉服店 代表者名 畑 恒夫 福島県会津若松市大町 1-1-53 (担当者) 畑 恒夫 Tel 0242-27-0404 表示者登録番号 018	後染反物 (色無地)	10 反	繭生産 茨城県南地区養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 大宮染織(株) 制作企画 (株)丸上 意 匠 自社
(生産数量の追加) 21世紀の絹を考える会 代表者名 石田克己 京都府城陽市寺田桶尻 12-3 (担当者) 石田克己 Tel 0774-52-2218 表示者登録番号 023	帯 後染反物 (色無地) (訪問着)	75 本 110 反 100 反	蚕品種 あけぼの 繭生産 J Aみなみ信州管内 養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 山口織物(株)、羽賀恒明、 江口機業(株) 染 色 (株)寺川染工場、 大竹史朗、福田罔男
(生産数量の追加) 染織家 柳 崇 東京都世田谷区若林 5-29-19 (担当者: 柳 崇) Tel 03-3795-2917 表示者登録番号 042	先染反物 帯	20 反 50 本	制作企画 絹の会 蚕品種 ぐんま200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 自工房
(生産数量の追加) 染織家 児玉 京子 代表者名 児玉 京子 沖縄県八重山郡竹富町上原 339 (担当者: 児玉京子) Tel 0980-85-6670 表示者登録番号 043	先染反物	5 反	制作企画 絹の会 蚕品種 ぐんま200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 自工房
(生産数量の追加) 草木染工房山村 代表者名 山村 多栄子 東京都八王子市長沼町 773-5 (担当者: 山村多栄子) Tel 042-635-9968 表示者登録番号 044	先染反物 帯 ストール	2 反 4 本 100 枚	制作企画 絹の会 蚕品種 ぐんま200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 自工房
(生産数量の追加) 手織り よおん 代表者名 長嶺 亨子 沖縄県沖縄市山内 3-12-18 (担当者: 長嶺亨子) Tel 098-933-1010 表示者登録番号 045	帯	6 本	制作企画 絹の会 蚕品種 ぐんま200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 自工房
(生産数量の追加) 祝嶺染織研究所 代表者名 祝嶺 恭子 沖縄県那覇市織名 1-17-15 (担当者: 祝嶺恭子) Tel 098-832-2365 表示者登録番号 046	帯	26 本	制作企画 絹の会 蚕品種 ぐんま200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 自工房

国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産数量の追加) 株式会社龍工房 代表者名 福田 隆 東京都中央区日本橋富沢町4-11 (担当者: 福田 隆) TEL 03-3664-2031 表示者登録番号 047	組紐	160 本	制作企画 絹の会 蚕品種 ぐんま200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 色 安田染工所 組加工 自社
(生産数量の追加) からん工房 代表者名 深石 美穂 沖縄県石垣市字川平 1175 (担当者: 深石美穂) TEL 0980-88-2459 表示者登録番号 048	帯	24 本	制作企画 絹の会 蚕品種 ぐんま200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 自工房
(生産数量の追加) たわた工房 代表者名 多和田 淑子 沖縄県那覇市松尾 1-2-14 (担当者: 多和田淑子) TEL 098-866-1380 表示者登録番号 049	先染反物 帯	2 反 6 本	制作企画 絹の会 蚕品種 ぐんま200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 織 自工房

次回審査会の予定は平成22年2月3日(水)です。申請される方は審査会の10日前までに申請書を提出してください。

2009 中国国際シルクフォーラムに出席して (最新中国シルク事情の紹介)

(社)日本絹業協会

世界各国のシルク産業界との協調と交流を促進し、国際レベルでのシルク産業の継続的発展を図るため、中国は、商務部(国家繭絲綢弁公室)の指導のもと、中国絲綢協会及び杭州市人民政府の共催により、昨年10月19～20日、浙江省杭州市において“2009 中国国際シルクフォーラム”を開催した。このフォーラムは、2006年に最初に行われ、次いで翌年に2回目があり、今回は一年間の期間において第3回目の開催となった。

2004年に国際絹業協会(I S A)が解散して以来、シルク産業について国際的に議論する場が失われており、国際レベルでのシルク国際会議としてこのフォーラムは多くの関係者から注目されているところである。

フォーラムの内容は、主要国のシルク発展状況を発表する基調講演と専門分科会(今回のテーマは「産業発展」と「技術革新」)の二部構成となっており、各国からの出席者は、中国はもとより日本、インド、韓国、フランス、イギリス、オランダ、ブルガリア、ルーマニア、ギリシャ、パキスタン、アフガニスタン、タイ、シンガポール、インドネシア、台湾、香港などから約130名近くの関係者が参集、日本からは本協会高木会長が基調講演を行い、同協会武居事務局長及び藤村製糸(株)安光社長も出席し関係各国と情報交換を行った。

ついては、この場でそれぞれの国の代表者によって発表されたものの中で、最新の中国のシルク事情について、業界関係者の方々への参考にご供したく以下に紹介します。



「基調講演を行う各国代表者の記念写真」



「日本代表高木会長の基調講演」

中国におけるシルク産業の発展の報告

中国絲綢協会 秘書長 錢 有清

概略

中国シルク産業は、国内市場を導き手とし、発展を目標に進展しているところであり、改革開放政策、科学技術の進歩を原動力として活性化され、シルクブランドの確立を継続的に強化しているところである。中国の産業構造の調整、最適化、アップグレード改革にともない中国全体の競争力が継続的に増加しているなかで、中国の絹生産と絹輸出は世界 No1 のシェアを維持し続けており、世界のシルク産業の発展に多大なる貢献をしている。

本報告の主要構成は以下の 5 項目である。

- I 中国経済調整期におけるシルク産業の安定成長
- II 産業構造の調整と産業基盤の改善
- III ブランド確立と技術革新による産業活性化
- IV 中国シルク産業が現在かかえる諸課題
- V シルク産業の発展促進のために

(中国の内憂外患)

中国シルク産業は、2008 年に入った以降壊滅的な地震災害や中央政府指導のマク

ロ的デフレ政策等の影響が未だに払拭されていないところに、人民元 (RMB) の貨幣価値の上昇、生産要素や価格の上昇などが追い打ちをかけ、この数年間の連続した経済急成長を経験した後、現在、調整期を迎えている。とりわけ、2008 年下半期に発生した米国を起源とする世界的金融危機の発生により、中国の経済調整期間の長期化と強調化が迫られている。しかしながら、中国政府が実施した消費・内需促進策、景気刺激策、財政出動および金融緩和策によって、2009 年の中国シルク産業は、経済調整の影響をあまり受けずに比較的安定な発展を維持している。

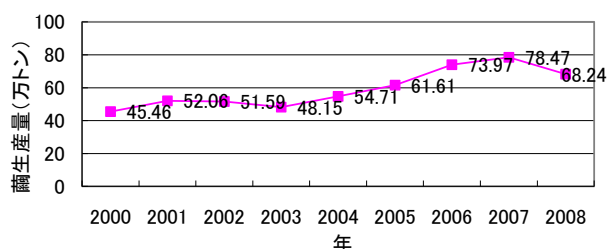
I 経済調整期におけるシルク産業の安定成長

中国の繭生産量および生糸生産量は 2004-2007 年の 4 年間は連続して増加したが、2008 年には中国経済の調整期への移行に伴い、共に減少した。(図①、図②参照)

(1) 中国桑園面積について

2007 年度の桑園面積は 95.2 万 ha で前年比 11.24% 増、2008 年度の桑園面積は前年比 7.49% 減で 88.1 万 ha であった。

図1 繭生産量の推移(2000～2008年)



(2) 中国繭生産量について

2007年度の繭生産量は78.47万トンで前年比6.01%増、2008年については68.24万トンで前年比13.04%減であった。今後の中国繭生産量は20%以上の減少率で推移するものと見込まれている。

(3) 中国生糸生産量

2007年度生糸生産量は14.9万トン(248万俵)で前年比11.2%増、2008年の生糸生産量は13.4万トン(223万俵)で前年比10%減。このうち、家蚕生糸生産量は9.86万トン(164万俵)、前年比で9%増であった。2009年の家蚕生糸生産量の予測では15%の減少で140万俵が見込まれている。

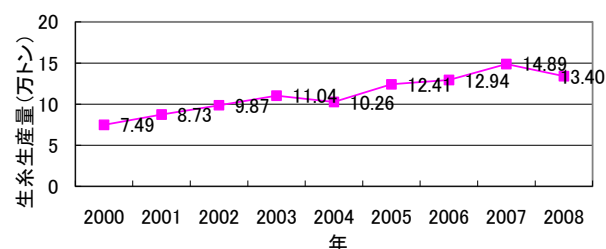
(4) 絹織物生産量

絹織物については、2007年は86.85億円で前年比1.2%増、2008年は85.7億円で前年比3.99%減であった。

(5) 経済的効果 ---- 工業製品生産額

2007年の総生産額は1,666億元で前年比18.7%増、2008年は1,793億元、前年比で8.6%増であった。2008年の成長率は前年比で約10%減であった。利益額については、2007年は42.7億元、2008年は40.84億元であり、それぞれ前年比で7.9%

図2 生糸生産量(野蚕糸を含む)の推移(2000～2008年)



増と4.36%減であった。2009年については、1月から5月までの総生産額で608.46億元となり、前年同期比で5.04%増であった。この間の総利益は13.77億元で前年同期比2.5%減であった。このように、シルクの経済効果は落ち込んでおり、しかも低い数値で推移している。

(6) シルク輸出減少と国内需要の増加

世界的な金融危機により、輸出指向型の中国市場経済が減速し、シルクの需要も縮小したことから、中国からのシルク製品の輸出に大きな影響を与えた。

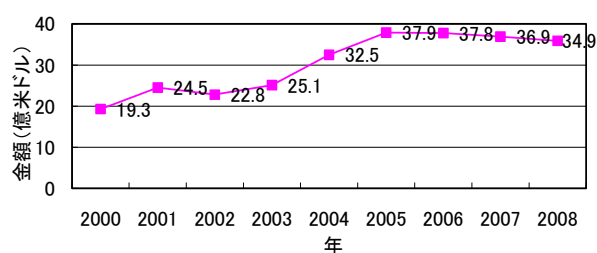
① 純シルク商品の輸出額

純シルク商品の輸出額は、2007年は36.9億米ドルで前年比2.37%減、2008年は34.93億米ドルで同比5.34%減となった。純シルク商品の輸出は2006年以降連続して減少している。2009年の1-7月期は16.65億米ドルで前年同期比で19.81%減であった。

② 中国国内市場

中国人民の環境問題への意識、生活の質向上から、シルク商品の消費構造が変化しつつあり、シルクの消費動向も下着、布団などインテリア用絹織物、装飾用絹、絹羊毛織物、シルクニットなど、絹をより多く

図3 純シルク商品の輸出額推移(2000～2008年)



消費する商品群に移行している。このような堅実な国内販売市場の成長により、シルク産業が新たな発展局面を迎えることが期待できる。

特に現在、国内のシルク布団の年間生産量は700万セットにのぼり、国内の生糸消費量は年間で1.5万トン(25万俵)、国内市場における原料繭の消費量の30%であり、徐々に国内の消費傾向が増加している。2008年にはシルク布団の生産企業は年間20%以上の利益成長率を達成しており、このような絹製品の国内需要の増大がシルク産業成長の新たな牽引役となっている。

(7) 生糸価格の安定と市場の回復

①生糸の価格変動

3A級の生糸は、2006年3月に36万元/トンの最高値を記録したが、同年7月には21.8万元/トンにまで下落した。その後、10月の生糸価格は27.3万元/トンに再上昇したものの、それ以降は下降を続けている。

中央政府のマクロ政策によって2007年から2008年9月末までの生糸価格は比較的安定に維持されてきたが、2008年10月の金融危機の影響で生糸の価格低下が促進され、11月には過去20年間で最も安値

の13.6万元/トンにまで下落した。このため、シルク産業自体も深刻な打撃を受け、養蚕農家の多くは桑園を放棄し、繭生産を中止し、また、製糸会社の倒産も相次いだ。

②回復の兆し

2009年以来、種々のプラス要因により生糸価格は徐々に回復傾向となり、8月末の国内市場における乾繭の平均価格と3A級生糸価格はそれぞれ前年比36.28%および32.42%増となり、2008年10月の最安値と比較すると乾繭の平均価格と3A級生糸価格はそれぞれ84.57%および59.08%増であった。このような生糸価格の回復とその安定化は、市場の個別要素が徐々に回復したおかげでシルク市場全体が安定成長期に移行した結果といえる。

II 産業構造の調整と産業基盤の目覚ましい改善

中国の産業発展に伴って、シルクの産業構造も調整され、その産業基盤の整備が着実に進んでいる。

(1) 東桑西移計画

東桑西移計画のもと2006年以来、中西部と北東部地域を中心に18省106県で106カ所の高品質繭生産の基地整備が進められている。宜州、南充、安康、保山等の各市において栽桑と養蚕の整備が進み、規模拡大、標準化、基地連携、科学指導を強化し、特色ある生産基地が形成され、特に、中西部における繭生産量と繭品質は著しく改善されている。中国新農村地域の基盤整備と発展を強力に推進し、シルク産業の活

性化により中国が単なるシルク大国から強大なシルク強国へと生まれ変わるための確固たる生産基盤を東桑西移計画によって整えたところである。

（２）製糸業界における地域生産基盤の調整

2008 年において生糸製造の認可企業数は 682 であったが、この認可企業数は、2006 年のそれに比べて 20 企業少なかった。地域別にみると、浙江の生糸製造認可企業は 10 企業減り、浙江は製糸企業が最も減少した地区である。一方、西部の広西、雲南、広東、山西などでは製糸企業は増加しており、特に広西自治区の企業数は 2006 年の 52 企業から 2008 年には 70 企業に増加している。

（３）生産特徴をもって細分化された生産基地

桐郷市（浙江省）はシルク布団と純絹製ブランケットに特化した生産拠点、南充市（四川省）は絹織物拠点、東台市（江蘇省）は繭・生糸・絹織物拠点、海安県（江蘇省）と柳州市（広西省）は繭・生糸の生産拠点及び嵊州市（浙江省）ではニット服装の生産基地として、それぞれ急成長している。各々の特色ある生産基地は相互に連携を図ることで効果的な生産を可能とし、中国シルク産業における地域産業構造の合理化を強力に推進している。

江蘇金縁集団、江蘇華佳投資、浙江絲綢之路、山東日照海運、安徽京九絲綢など農業・工業・貿易が一体となったシルク企業の成長が著しいものがある。加えて薄地絹

織物生産に優れた浙江虹絹集団、シルク布団などシルクインテリア製品生産に優れた浙江達利、蘇州慈雲と湖北台蓮陽光、それに弾力性純シルク原料を取り扱う杭州金富春集団など、農・工・貿易一体化企業と共に特徴あるシルク製品を生産している企業がシルク産業の活性化に積極的に貢献している。

Ⅲ ブランド確立と技術革新による産業活性化

中国シルク産業ではここ数年の技術向上が著しく、ブランドなどの商標登録が進んでいる。新しい設備や技術力のもとに新しい製品を作り出す新規企業の参入が急速に進み、知的所有権を伴う独自の開発技術が普及されるようになり、これが伝統産業に新たな旋風を巻き起こし、シルク産業発展の安定化に一役買っている。

（１）技術革新とデザイン創造力

洗練されたハイテクトレンドの流行に乗って、機能的なシルク商品が開発され、例えば、防水や縮み防止機能、抗菌機能等のシルク製品の開発が行われている。また、柞蚕糸で問題とされる染色堅牢度やシワ発生などについて基本的な解決策が既に見出されており、遼寧蓋州暖泉絹紡廠で実用化に取り組んでいる。柞蚕の人工飼料育についても試験研究が実施され、遼寧柞蚕絲綢科学研究院において、実用化への技術開発が行われている。また、江蘇華佳投資集団では伸縮性に富んだシルクの開発が行われている。

中国絲綢協会の主催で行われた「2008 Gold Three-Tower Cup 金三塔杯」シルク

デザインコンテストにおいて、“高品質な生活のための現代ファッション (modern fashions for quality life)” と題して、このイベントを通してシルクの普及、デザインの創造性とレベル向上に努めた。

(2) シルク製品の標準化強化

2008 年に中央政府の承認を得て、全国織物標準化技術委員会のシルク分会がシルク標準化委員会に格上げされたことにより、中国におけるシルク標準化が新たな局面を迎えている。

生糸需要への対策と生糸品質の保証するために、国家基準の「生糸」および「生糸検査法」が 2008 年に改正、09 年 6 月に施行された。また、シルク布団産業では、2003 年に策定した業界基準を今年度に改定し、これを国家基準とした。これは国家基準としては世界初のものである。「家蚕絹織物」、「絹織物検査法・検査規則」も改定され、また、生糸電子検査については国内基準が整備されシルク標準化委員会に提出済みである。

(3) シルクブランドによる産業発展の牽引

既に 29 企業が高品質シルク (high-class silk) のロゴ使用許可を得ており、中国の絹文化を最大限に利用した企業イメージのアップと国際的なブランド確立への動きが高まっている。例えば、Cathaya (凱喜雅)、Soho (蘇豪)、Silique (絲麗) などのブランド名は国内外の市場において人気と知名度が増している。中国シルク文化とブランドによる発展の試みは随所に見受けられ、

例えば中国絲綢協会は高品質シルクを広く普及するために北京オリンピックとパラリンピックを絶好の宣伝の場として高品質シルクのロゴと関連企業の宣伝を行った。

(4) 公共サービス基盤の整備

国家開発改革委員会のもとで、品質生糸の商標、製品、技術、品質等に係る公共のサービス基盤や生糸電子検査技術とその標準化が中国絲綢協会により進められている。高品質生糸の商標登録基準では、高品質生糸に関する技術、品質、環境保護の観点からの標準化体系、高品質生糸の検査レベルの向上、高品質生糸の新しい技術、加工の普及などが強力に推進されている。

生糸電子検査技術を理論から実践に移行するために生糸電子検査基準計画が実施された。光学センサーと静電容量センサーを組み合わせた検査方法と中国語で対応可能な試験機試作品が開発されている。サンプル抽出理論、格付理論が確立され、世界に公表された。生糸電子検査の標準案を發布し、そのデモを行える施設を先ず整えている。

(5) エネルギー節約と CO2 削減効果

環境保護、エネルギー節約、CO2 削減技術を導入した染め織りの数々の新しい技術により、新しい絹薄物の工程が開発され、シルク産業で利用されている。CO2 排出ゼロ、廃棄熱回収技術が徐々に普及しており、山東泰安百川水業公司で開発された排水ゼロの製糸技術と設備が山東、浙江、江蘇等 8 省の多くの製糸工場で利用されている。この技術によると製糸排水の 90-95% は再

生され、排水の熱エネルギーは年間で 28% 相当の石炭の節約となっている。

Ⅳ 中国シルク産業が現在かかえる諸課題

1. 弱い独自開発能力と相対的に遅れている製品開発研究

中国シルク産業は輸出依存型であり、国際的なマクロ経済環境の変動を受けやすいなど依然として脆弱な状態にある。さらに、中国シルク産業の経済規模は小さく、各セクションの連携・協調が困難であり、優良企業や先端技術の支援が不足しているなどの諸課題をかかえている。また、科学技術への投資額が少なく、基礎となる絹関連技術の研究開発が不十分であるばかりでなく、設備整備も遅れており、高い生産技術や設備はいまだに輸入に依存している。現在、シルク産業の発展を妨げているのは、染め工程以降であると考えられ、特に製品デザイナーの人材不足が深刻である。

2. 産業構造の著しい矛盾

中国シルク産業は組織的な連携体制が整っておらず、小規模な企業が分散しており、市場競争力が弱く、企業間の川上川下の連携が弱い。また、中国中央部と西部では技術力の企業間格差が存在している。主要な絹製品は服装・服飾品向けであり、産業用途等の総合利用的な消費の割合は低い。機能性を付与した絹も含めていまだに市場の要求を満足させるものとはいえず、絹製品の種類やカテゴリーは時代遅れで多様性がなく、様々な消費者の需要に適合していない。

3. 商標の確立と市場ネットワーク構築の遅れ

商標登録済商品の割合は低く、国内市場の開発は遅れており、販売に関しては大衆性と方向性が見いだせていない。輸出市場ルートを制御することができない。ブランドの確立は遅れており、有名ブランドの国内認知度は低く、海外における認知度も非常に低い。国内市場の開拓能力も遅れており、国内市場の潜在力は発展どころではなく、シルク製品の効果的な需要を制限している。シルクの展示普及が遅れており、シルク製品の貿易とマーケットに関するネットワークの構築が切に望まれている。

4. 科学技術改革支援機構の遅れ

新たな絹技術の改革のために必要な企業や生産・研究の融合が遅れている。中央政府、各省、または産業界で認証されたセンタリック的研究開発拠点が少ない。シルク産業発展の調整役として機能する機関が整備されていない。国内外のシルク産業資源の統合化が図られていない。

Ⅴ シルク産業の発展促進のために

近い将来、中国絲綢協会は“成長維持、構造調整、内需拡大”をスローガンにガイドラインを制定する予定であり、さらに繊維産業の調整と再生計画に沿って、健全・安定・継続可能なシルク産業の発展のために、産業の構造改革（調整、最適化、アップグレード）を進めていく。

1. 「東桑西移」計画の継続と産業発展基盤の増強

「東桑西移」計画によって整備された高

品質繭生産基地を拠点に、家蚕絹の生産技術をさらに改善し、川下に向けた連携の強化を図り加工技術の向上を図る。独自の技術革新をもつ企業を醸成するために、会社＋農家形式の発展を継続する。中央・西部の両地区に集約された家蚕絹の生産拠点には、シルク産業の一層の発展のために、シルクの消費・普及に関わる展示パークのようなセンターを設置する必要がある。

2. 市場の潜在力の発掘とシルク消費拡大のために

シルク消費による影響を増加させるために、シルク製品の広報活動を強化しなければならない。シルク企業は国内の様々な消費者向けに多様な絹製品を開発し、宣伝方法やマーケティング方法の改善、インターネット販売など新たな市場ルートの構築も重要である。従来 of 輸出市場をより成熟させる一方、国内市場の成長に向けた努力もより一層必要である。

3. 技術革新のペースアップ、独自の技術革新能力の強化

複合化や多様化、機能性を付与した生糸の開発や、水の要らない染め技術、オンライン等による検査システムの開発が必要である。一方、標準検査法の制定にも注力しなければならない。民族伝承のシルク加工や技術、無形文化財については認識、保護のもと、あらたな技術革新の元種とする。また、伝統と現代との融合化も必要であるし、独自の技術革新力も強化する必要がある。

4. シルクブランドの確立とシルク産業の総合的な競争力の増強

シルクブランド確立の戦略ペースを速める。シルク産業を牽引する優良企業を支援し、知的所有権をもつ商標をつくりだす。絹文化とブランドとの密接な連携により、文化＋ブランド形式による発展を整える。絹製品の文化的価値を高める。ブランドシルク企業の市場影響力を強めるため、これに関わる企業を支援、産業整合、産業集約化する。ブランドシルク生産企業は、国外市場への進出を図り、ブランドシルクの影響力を広める。

5. シルク素材の総合的な活用法とエネルギー節約とCO2削減

絹資源のリサイクルが必要であり、グリーンプロセス技術等を産業に応用する。桑、カイコ、絹の本質的な価値について見直し、利用範囲を広める。また、絹資源の再利用率を高める。生産体制の遅れた企業、エネルギー消費型や公害をもたらす設備は集中的に整理する。

6. 国際交流と共同のために

生糸電子検査の国際基準化のために、中国の高品質シルクを国際的に広める活動を強化する。海外シルク産業との交流交換と共同路線を幅広に行う。戦略“世界市場へ”と“中国への導入”を継続しなければならない。人材育成や技術交流のための共同体制を整える。生産－販売に関連した多国間の対話を促進し、世界の絹産業における技術、貿易、国際協調についての秩序を相互に関連して維持していく。

熱き想いを語っていただいた 「蚕糸絹文化シンポジウム」

財団法人大日本蚕糸会主催の『天皇陛下御在位 20 年慶祝行事蚕糸絹文化シンポジウム「地域が支える蚕糸絹文化」』が、去る 11 月 30 日、東京都丸の内での東京會館ロイヤルホールで開催されました。

当日は、朝方の雨も上がり、予定を上回る 400 名を超える方々の参加がありました。女性の着物姿が多いばかりでなく、男性のカジュアルな着物姿に目を見張るものがありました。本シンポジウムは、二部構成で、第一部は、女優の檀ふみさんを囲んで、蚕糸業をめぐるトークショウ、第二部は、主要蚕糸絹産地の市長さんらが地域の蚕糸絹の取組みを語る、ものとなっています。



着物姿が多かった今回のシンポジウム

また、会場には、国産繭・生糸を使用した「純国産絹製品」を展示するとともに、皇居ご養蚕所など蚕糸業にかかるパネルも掲示し、多くに参加者に見ていただくコーナーも設置されました。財団法人大日本蚕糸会高木会頭の挨拶の後、シンポジウムが始まりました。

第一部「繭と生糸に込めた思いを語る」

第一部のトークショウでは、檀ふみさんが、養蚕農家（埼玉県・柳久子さん）、製糸業者（山形県松岡株・鈴木重雄さん）、蚕種等研究者の立場から蚕業技術研究所井上元所長さんに、日頃の蚕糸に対する思いを聞かれました。

檀さんは、全国各地の蚕糸・絹織物産地の現場を訪れていますが、「純国産の繭・生糸の生産の減少を見るたびに、日本から蚕や繭がなくなるのでは」と常に心配されているといいます。

これを受け、柳久さんは、自己の養蚕経営の現状と繭生産の大変さ、それに地域の女性と共同で、「糸紡ぎ、絹製品づくりへの取組」等活力をもって取り組んでいる

様子を語られた。

また、鈴木重雄さんは、自社の長い歴史で、製糸に携わってきた経験を踏まえ、繰糸技術を駆使して、輸入生糸と差別化して、良質な生糸生産を行ってきたことを説明された。

檀さんから「きものを日本の蚕糸絹の象徴ととらえると原料から絹製品まで純国産を最高の技術で作り上げることが期待されるのでは」との問い掛けに、井上さんは、日本の蚕糸技術が世界最高峰であること、新しい特徴ある蚕品種育成の動き、純国産絹マークの紹介等されました。

これらのお話から、檀さんは、「純国産絹製品がこれからも、関係者の協力のもとに作られることを期待します」と締めくくられました。



トークショウ風景

第二部「産地が語る蚕糸絹文化への思い」

第二部は、中谷比佐子さん（きものエッセイスト）をコーディネーターに蚕糸絹産地の方々、岩井賢太郎市長さん（群馬県富岡市）、今井竜五市長さん（長野県岡谷市）、中山泰市長さん（京都府京丹後市）、三好

幹二市長さん（愛媛県西予市）、室吉峯産業観光局理事さん（京都府京都市）から各市で取り組んでいる蚕糸関係の地域活性化、地域おこしの状況と今後の展望等について報告がありました。

岩井富岡市長さんは、「富岡製糸場は、日本の絹の存在を世界に広め、ユネスコ世界遺産暫定リスト入り」したことと蚕糸絹業提携システム確立事業の取組を話され、今井岡谷市長さんは、「日本近代を支えた製糸業で発展してきた工業都市」として、両市長さんは、近代化の象徴的な都市を紹介されました。

また、中山京丹後市長さんは、絹織物産地としての古代からの歴史とシルクファッションなどの機業支援など丹後ちりめんの高付加価値化を進めています。

三好西予市長さんは、「シルク博物館を設置し、蚕糸業の歴史文化を後世に伝えるとともに染色技術者の育成や工房を設置し生糸生産」を行ってきた実績を報告されました。

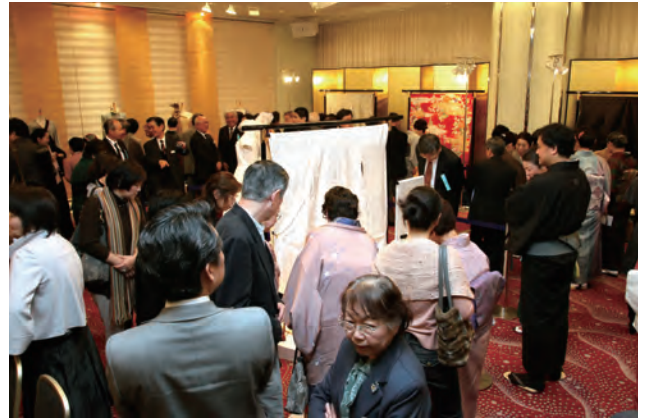


大いに語る各市長さん

日本の絹織物の一大集散地である京都市からは、室理事さんから、「京都市が誇る和装産業、絹産業の振興の重要性」を訴えられました。

いずれの方々からも「蚕糸絹業が今後の生き残れるための振興策」を積極的に行い、「地域が絹を支える」力強いお話を窺うことができました。

今回のシンポジウムは、多くの方々の参加があり、大変盛り上がって盛会裏に終わりました。



熱い視線を集めた純国産絹製



(財) 大日本蚕糸会高木会頭

日本絹文化シンポジウム 「絹で奏でる音世界」

伝統的工芸品産地プロデューサー
(株) エムアンドカムパニイ

代表取締役 菊池 優希

(日本染織博覧会開催実行委員会企画委員)

10月下旬に東京日本橋で、絹による音の世界を楽しむ会が(財)大日本蚕糸会の主催(企画・運営/エムアンドカムパニイ inc.)で開催されました。同時期に開催された日本染織文化博覧会の関連企画として行なわれ、会場ロビー、舞台は、純国産絹きもの、日本染織産地のきもので彩られ、華やかな空間で、音楽学者の徳丸教授による基調講演、米川敏子とその社中による箏と三弦演奏、深草アキによる秦琴演奏がおこなわれました。

■基調講演「絹の弦を見直す」徳丸吉彦氏

日本の絹の良さを一人でも多くの方に知っていただこうと、10月23日、日本橋三越劇場にて開かれた日本絹文化シンポジウム「絹で奏でる音世界」は、(財)大日本蚕糸会会頭高木賢氏の挨拶に続き、民族音楽の第一人者、聖徳大学教授徳丸吉彦先生(放送大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授)の基調講演から始りました。

絹は衣料としての用途は勿論の事、楽器の弦としても古来より使われてきましたが、現在は大きな音、切れない弦を求め、多くの場合、絹弦からテトロン弦へ移行しています。

徳丸教授はこの事により本来の繊細な音色が失われ、箏においては演奏家達の大切な指や腕の健康を損なう事になると警鐘をならしておられます。

「絹の弦を見直す」との演題で、竹の弦を用いたカリंगाというフィリピンの楽器、馬の毛で弦と弓がつくられたという伝説を持つモンゴルの馬頭琴、弦を素手で弾くビルマの豎琴、ベトナムの弾箏（ダンシャイン）など、CDによる演奏紹介がありました。カリंगाは竹、馬頭琴は馬の毛を古来の伝統の形状で使用していますが、ビルマの豎琴、ベトナムの弾箏は従来の絹弦を用いていないため、本来の音を再現する事ができず、微妙なニュアンスを表現できなくなった、つまり音色が本来のものでな

ければ、それは音楽として認めないという発想が音楽の世界にあると指摘されています。現在も絹弦のみを用いる三味線は、弦の伸び縮みがあるため、演奏毎に演奏家自身による調弦が必要ですが、その発想こそが重要と説かれます。

一方、現在殆どの箏演奏家の方々は、弦を絹からテトロン弦へ替えています。

箏本来の繊細な音色を取り戻し、また演奏家の方々の指や腕の健康を保つ為への新たな絹弦開発への取り組みが、紹介されました。

上段左・右／徳丸教授 中段左／カリंगा 下段左／馬頭琴 中段右／ビルマの豎琴 下段右／弾箏



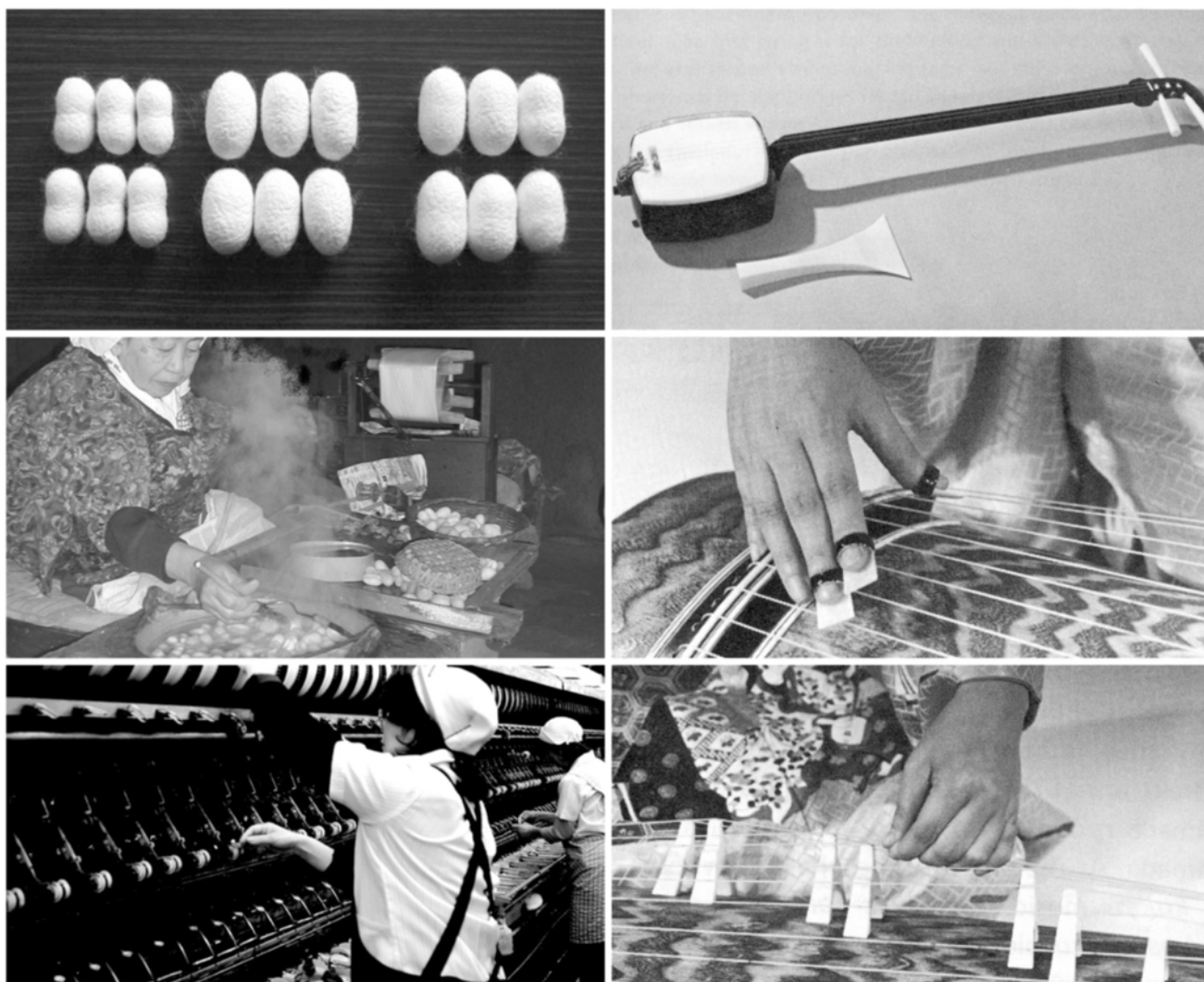
徳丸教授は絹弦でも切れにくい強い弦を開発するべく、人工飼料ではなく桑の葉で育てられた宮内庁紅葉山養蚕所の小石丸や、日本養蚕技術の粋ともいべき雄の蚕のみの繭（プラチナボーイ）、他には春嶺×鐘月など繭を選定し、また糸の引き方にもこだわって、さまざまな検証を続けておられます。

蚕を育てる人、特殊絹糸にする人、楽器の弦にする人、そして演奏家の方々などのご協力が得られれば、国内産の蚕でもう一

度、日本の楽器にあった絹糸ができると希望を述べられました。現在、音色や、強さなどについての実証データを収集されていますが、評判は上々であり、絹弦使用のリピーターも増え、着実な成果を生み出しています。

こうした再び絹弦に戻そうとするムーブメントは国内のみならず、中国やベトナムでもおこっており、沖縄のサンシンにも絹弦に戻そうとする兆しが見えてきています。

上段左／繭：小石丸・プラチナボーイ・春嶺×鐘月 中段左／座繰 下段左／自動繰糸
上段右／三弦 中段右／箏演奏 下段右／箏演奏





■ 箏と三弦の演奏 米川敏子とその社中 箏曲「千鳥の曲」三弦弾物「乱れ」

基調講演に続いて行なわれた、二代米川敏子さんとその社中の方々による箏と三弦の演奏では、実際にそうした前述の絹弦をかけ、華麗なる音色を会場に響かせました。

別々の旋律を奏でる二台の箏には、春嶺×鐘月とプラチナボーイをそれぞれにかけ、「千鳥の曲」を、三弦では一の糸と二の糸に小石丸、三の糸に春嶺×鐘月をかけて三弦段物「乱れ」の曲がしっとりと演奏されました。



■秦琴演奏 深草アキ 「沙羅の糸」「A線上の月の砂漠」「星の大地」

最後の舞台はNHKドラマの音楽を創作したり、玉三郎公演の音楽監督等も勤める、深草アキさんによる中国の古楽器、秦琴演奏で締めくくられました。

深草さんは絹弦にこだわりをもち線糸は座線、その時の繭は生繭と限定し、ご自分用の弦を指定の工房で特別につくっておられます。

「沙羅の糸」「A線上の月の砂漠」「星の大地」が演奏され、艶やかな絹のきものを背景に、繊細な絹の音で宇宙的な音楽世界が繰り広げられました。

■日本伝統産業発展へむけて

日本絹文化シンポジウムの報告は以上ですが、日本絹産業、日本伝統産業の発展を願って日頃より抱いている考えを述べたいと思います。

私は美術大学卒業以来デザインを生業とし、民間企業、各種公的機関の事業企画や、製品開発、ブランド開発等に長年係わらせていただいて参りました。

染織産業に限らず殆どの伝統産業に接して感じる事は、生産現場と市場ニーズとの温度差です。

日本の養蚕技術は、約1800年前に中国

から伝わったといわれており、20世紀には世界最大の蚕糸国として欧米へ大量の生糸を輸出し、日本経済に大きく貢献してきたことは皆さん周知のことと思います。

その後生活様式や流通形態の変化により生産量は大幅に減少していますが、

さまざまな技術開発により個性的なブランド繭が創出されたり、新たな線糸法が考案されたり、新規需要に期待がかかっています。

市場ニーズの分析と商品計画、デザイン、PR、販売戦略を間違いさえしなければ、活路を開く原動力の一つになると確信します。

しかしながら、和装業界にあって新しい事を発信しようとするには、あまりに重い扉が幾重にも閉ざされて、市場形成をする前に劣化しかねない危険を感じます。

伝統はいつの時代にあっても、新鮮な考えを柔軟に受け入れ、革新がなされてこそ、次世代へ繋ぐエネルギーとなり、新たな伝統を創出する、この事は多くの方々が賛同なさるのですが、実際の行動となるとやはり保守的な、無難なところで落ち着きます。

和装業界はまちがいなく、電子商取引引き、つまりPCや、携帯を使ったネットショッピングの分野で完璧に出遅れています。

ネットショップで素性の知れない製品が破格の値段で取り引きされている事も事実です。それを正す為には、本家本元となる染織産業に係わるすべての方々が一丸となって流通形態の革新を行なうべきであると私は考えます。

行政の協調体制も必要不可欠です。2011年には日本のテレビ放映もデジタル化され、ネットショップにおける需要は益々盛んになることは間違いありません。

ネットショップの反映が、対面販売の業績を脅かすというのは、間違った認識です。それぞれの特性をいかした戦略さえ有ればむしろ、比例した相乗効果を生み出すことになるでしょう。

和装業界に課せられた現状の急務は、どれをとっても明日の時代を左右しかねない重要案件ばかりです。

(社)日本絹業協会では、昨春より繭から縫製に至る迄一定の基準を満たした国産

絹製品に対し「純国産絹製品」として承認し、繭生産から絹製品の製造に至る履歴を表示する「純国産絹マーク」の使用を認める活動をはじめています。この活動は消費者目線で考えれば、情報を求める市場ニーズに合致します。

このほか、真摯な取り組みが成果をあげている事例も有りますが、日本全体の染織産業としては、幾つもの課題が山積みになっています。

日本伝統産業の発展を考える時には、一気通貫の、単年度ではない行政協調の体制をとれないものかと常々思っています。

後継者問題や、教育は文科省、蚕、生糸は農水、染織、流通は経産、観光資源では国交省、こうもバラバラではかけるエネルギーも経費も膨大になるばかりで成果をだしにくい。然し乍ら、最近進められている蚕糸提携システムの施策は農水と経産が連携推進している好事例であり、今後一層の強化がのぞまれます。

日本養蚕技術も、日本の絹からつくられる染織製品などの伝統産業も、国の宝であり、重要な資源です。

現代女性のきものの着方は江戸時代後期の形が伝承されてきています。完成された美しい形を継承したいと思いますが、他にもっと自由な形があってもよいはずです。

美しいきものをきてみたいと思う海外の女性も沢山おられます。

世界市場を含めた新規需要を開拓し、伝統産業の次世代への発展的継承を望みます。



福島県の養蚕の歴史と目指す方向

～ 今が旬・ふくしまの繭 ～

福島県農林水産部園芸課

主幹兼副課長 目黒 友

はじめに

全国の蚕糸関係者の皆様には、日ごろ、当福島県の優良繭を御活用いただき、高品質・高付加価値な国産絹製品等を産み出してくださっておりますことについて、養蚕農家の経営安定に携わる立場として、あらためて御礼を申し上げます。

本県の養蚕業につきましては、2009年3月のシルクレポートに、「平成20年度福島県養蚕振興セミナー開催～これからが旬・ふくしまの繭～」というタイトルで、『福島県の養蚕農家の意気込み』を寄稿させていただきました。

以来、10ヶ月が過ぎ、本年度の養蚕も無事終了したこの時期を逃さずに、新たな蚕糸・絹業提携システムを早期に構築するため、これまで以上に関係者との話し合いを積極的に進めることとしている最中、再び、本レポートにおいて、全国の蚕糸関係者に福島県の養蚕を紹介させていただく機会をいただきましたことにあらためて感謝いたしますとともに、この寄稿が、本県の

今後のシステムづくりに向けたさらなるご支援をいただくきっかけとなることを大いに期待しております。

小手姫が伝えた福島県の養蚕と機織り

福島県には、養蚕業や織物業の始まりに関するこのような伝説があります。

その伝説の地は、福島市東方の阿武隈山系に位置し、古くから養蚕と絹織物の産地として栄えた伊達郡川俣町の大清水というところで、そこは、伊達郡に機織りや養蚕技法を伝えたという小手姫の最期の地とされています。



小手姫像

「信達二郡村史」付録・甲集之上巻（1902年）によれば、第32代崇峻天皇（在位587－592年）の妃であった小手姫（おてひめ）が勢力争いに敗れて京を逃れた息子（蜂子皇子）を追い、故郷の大和の風情に似た川俣の地に辿り着き、「この土地は蚕を育てん土地なり」とこの地に止まり、70歳まで機織りの技術を伝え、当地方の養蚕と絹織物の基礎を築いたとされています。

また、伝説では、小手姫はついに息子と会うことはできず、大清水に身を投げ生涯を閉じたため、後に住民の手で大清水に祠（ほくら）が造られ、明治43年（1910年）には織姫神社として祀られ、平成4年にはその地に高さ7メートルのブロンズ製の小手姫像が建立され、穏やかな表情で町を見守っています。

日本の蚕糸業における福島県の役割

そのような養蚕業や織物業の由来・物語を持つ福島県が、これまで日本の養蚕・蚕糸業に果たしてきた役割を紹介します。

蚕種製造業については、江戸時代後期に天領となった陸奥国伊達郡（現在の福島県伊達郡と福島県伊達市）は「奥州本場蚕種」の名を幕府から許可され（1773年、安永

2年）、遠くは九州まで蚕種を販売する日本最大の蚕種産地となり、当時、年間25万枚と云われる蚕種紙の7割以上を生産するなど、まさに「蚕都」としての隆盛を誇っていました。

また、蚕の飼育についても、伊達郡梁川（現伊達市梁川町）では、中村善右衛門（1809－1880年）が蚕当計（今の寒暖計の一種）を発明し、『温暖育』で安定的な養蚕を実現するなど、蚕種製造業の繁栄と併せて蚕飼育の安定化が図られ、明治6年には相次いで器械製糸工場が操業を開始するとともに、明治21年の繭生産量が4,753トン、明治43年は8,865トンの繭を生産するなど、伊達郡一帯の蚕種業と養蚕業・製糸業などの分業化が進み、蚕種・繭・生糸の一大集散地に発展しました。

そのような中、明治39年（1899年）に、東北地方で初めての日本銀行福島支店が設立されるなど隆盛を誇り、「蚕都」福島は、本県の養蚕業、製糸業、織物業はもとより、日本の経済発展に大きく貢献してきました。



福島県の蚕糸業の歴史

福島県の繭生産量は昭和 14 年に過去最高の 17,525 トン、昭和 48 年には 12,570 トンと戦後最高を記録しましたが、昭和 56 年に 1 万トンを割り込んで以来、毎年減少し、平成 20 年は 51 トン（群馬県に次ぐ第 2 位）となっています。

養蚕農家戸数は、昭和 28 年が 60,040 戸と県内農家の 36% で養蚕を営んでいましたが、平成 20 年には 104 戸（県全体の 0.1%）にまで減少しています。

また、蚕種製造業については、昭和初期は数百もの蚕種製造者がありましたが、昭和 14 年に 9 ケ所に整備されて以来、近年まで優良蚕種の安定供給が図られてきました。しかし、現在は 1 製造所となり、本県をはじめ東北地方ほかに優良蚕種を供給しています。

さらに、生糸生産数量についても、昭和初期の全国第 7 位（約 66 万俵）から昭和 40 年代は全国第 3 位（約 36 万俵）、昭和後期は全国第 2 位（約 2.4 万俵）でしたが、平成 13 年に県内唯一の製糸工場が廃業したため、現在は、和装絹製品仕向けとして県外の製糸工場（山形県松岡株式会社）、及び、真綿製品（入金真綿や真綿布団等）や紬糸（結城紬）仕向けとして真綿製造業に対して、県内の全ての繭を供給しています。

福島県の養蚕指導等の体制について

現在、福島県の養蚕業は、中通り地方の伊達市、福島市、本宮市、二本松市、田村市等の 8 市 6 町 2 村の 100 名（平成 21 年



度当初）の養蚕農家が桑園面積約 200ha を活用して、年間 3 回から最多の 8 回飼育により 1 戸当たり約 500kg の収繭量（平均）を上げています。また、1 トン以上の養蚕農家は 14 名で、その中には、過去に天皇杯等を受賞し大型飼育装置を駆使して超省力養蚕経営を行っている、本県が誇る先導的な農家もおります。

稚蚕飼育については、平成 20 年度までは県内 2 ケ所（福島市、田村市）の共同飼育所（1～3 齢桑葉育）と 2 ケ所の個人受託飼育所（1～2 齢桑葉育）で飼育を行っていましたが、平成 20 年度で共同飼育所 1 ケ所が廃止になったため、今年度、（財）大日本蚕糸会の「蚕糸絹文化活性化推進事業」を活用し、本県唯一の稚蚕共同飼育所





(田村市船引)の稚蚕桑園管理機械や飼育施設等を修繕し、安心して飼育が行える体制になっています。

養蚕農家に対する技術指導については、県内7 J Aの蚕業技術員資格を有する J A営農指導員が養蚕農家からの信頼を受け、稚蚕や配蚕時の指導、壮蚕飼育やぞく中管理指導、繭質評価、養蚕専門部会等の指導を行っております。

また、県としても、県内 J Aと蚕種、製糸、真綿製造者による福島県優良繭生産推進協議会（会長： J A全農県本部副本部長）において、定期的な蚕業技術員会議や養蚕振興対策会議（県との共催）、養蚕振興セミナー等を開催し、新たな蚕糸・絹業提携シ

ステム構築に向けた検討や養蚕活性化策を進めております。

新たな提携システムに向けた取り組み

平成20年度から、蚕糸・絹業提携支援センター（大日本蚕糸会）による「蚕糸・絹業提携緊急対策事業」が進められており、これまでに群馬県を中心に9グループが「蚕糸・絹業提携システム確立対策事業」による支援を受けているところですが、残念なことに、本県においては同事業による支援を受けているグループは今のところはありません。

しかしながら、本県では、希少価値・高付加価値純国産絹製品づくりのシステム化に必須となる純国産絹マーク（日本絹業協会）について、現在、11のグループでの使用許諾をいただいております。

それら11のグループを大別しますと、重要無形文化財である「結城紬」との連携や呉服専門店チェーン「(株)さが美」との連携、さらには、伝統の「京都西陣織」との連携といった三種類のシステムづくりが、コーディネーターを中心に各 J A、養蚕農家、絹業の皆様方により真剣に進められております。

しかしながら、本県の繭生産量全体から見れば、それらのシステムへの繭供給量は2割程度にとどまっていますので、今後、新たな提携システムへの参加を志向している約100戸の養蚕農家全員が参加していくためには、これらグループの繭使用量（ロット）の一層の拡大はもとより、新たなグ



ループを創り出していくことが喫緊の課題であり、残された期間の中で迅速かつ着実にその課題に取り組んでいかなければならないと考えております。

今が旬・ふくしまの繭

このような状況において、今後、福島県におきましては、県及びＪＡや蚕種製造、製糸、真綿関係者が一丸となり、需要者の要望に応えることができる「良い繭づくり」に向けた養蚕農家の意識改革を徹底していくことはもとより、蚕糸・絹業提携支援センターやＪＡ全農全国本部等とも積極的に連携しながら、本県の養蚕農家全員が新たなシステムに参加できるシステムの構築と

確立を進めて行く所存でございます。

全国の絹業・織物業・小売業等の皆様方におかれましては、日本の養蚕と絹文化を、これまでも、そしてこれからも支えていく福島県の繭を、新たなシステム・純国産絹製品づくりに積極的に活用していただきたいと思っております。

良い繭づくりの「意欲」と「技術」、養蚕を支える「組織」、そして、豊かな「自然」、美味しい「水」、本当の「空」、温かな「心」、蚕を慈しむ「歴史」に育まれている福島県の養蚕。

そんな、『今が旬・ふくしまの繭』を、今後ともよろしくお願いいたします。



‘09 年広西壮族自治区の蚕糸業見聞録

東京農工大学

名誉教授 黄色 俊一

はじめに

広西壮族自治区蚕業技術推广總站長祁広軍氏からの招聘を受けて、わが国では見ることができない、20万トンの繭を生産するという広西壮族自治区の4地方を訪問した。今や中国の繭の1/4を生産する広西蚕糸業発展の立役者である顧家棟氏は、かつて東京農工大学で1年間一緒に過ごした筆者の朋友であり、顧氏に協力して東桑西移の進展に貢献した中国農業科学院蚕業研究所の黄君霆氏も旧知の仲で、3人は同い

歳である。そんなわけで、以前から広西の蚕糸業を見に来て欲しいといわれていた。

広西壮族自治区は南亜熱帯気候で年間の平均気温は20℃前後、年間降雨量は1,500mm、緯度が低いので日照時間が長く、桑の栽培には適しているとのことである。大王椰や大木のマンゴー、気根の榕、株立ちの竹、ユーカリの林、何処を見ても南国である。壮族自治区となっているが、壮族（チワン族）は約33%で、その他10以上の少数民族が住んでいる。1月に桑の



広西蚕業技術推广總站幹部職員

花が咲くので、3月に得た交雑種の種から実生苗を作って密植するという桑畑造成が一般的で、収量が多いからという理由で葉摘みで収穫する。養蚕は3月から12月初旬までできるという。今や約13万ヘクタールの桑畑を擁し、約20万トンの繭を生産しており、ここ5年間中国一の大養蚕地帯である。視察した4地域は(1)河池市(宜州市)桑畑3.7万ヘクタール、産繭量6.2万トン(2)南寧市(横県)桑畑3万ヘクタール、産繭量5.6万トン(3)来賓市(忻城県)桑畑2.8万ヘクタール、産繭量3万トン(4)柳州市(柳城県)2.3万ヘクタール、産繭量3万トンで、合計11.8万ヘクタールの桑畑で17.8万トンの繭を生産しているという。視察対象は広西自治区側の計画によるもので、農家、製糸会社、蚕種製造所だけでなく、資源・環境問題を意識した残条や蚕糞蚕沙利用会社、施設や設備の自動化に挑戦する会社などである。

広西壮族自治区技術推广総站

南寧市郊外にある蚕業技術推广総站は現在広西蚕糸業の司令塔であるが、1964年エリサンのために設立され、1970年頃から家蚕を中心とした広西自治区蚕業指導所になった。5年前から、次々と新しい建物を建て設備を整えてきたとのことである。現在の業務は研究・技術開発、原蚕種の製造、指導者の育成であり、技術者110名を含む所員は188名で、中国一の規模である。

桑品種としては桂桑62、桂桑12およ

び桑特2号などが作出され、広西各地で広く普及している。蚕品種は、顧家棟氏らが育成した広西以外でも人気のある夏秋蚕品種の両広二号と、広西で多く使われている春秋蚕品種の桂蚕一号が広く普及している。ともに4元雑種で虫質は極めて強健であり、幼虫も繭も一見南亜熱帯地方の蚕品種には見えない程の外観である。原蚕種は10万枚(28蛾付)製造し、1枚70円を出荷するという。昨今広西でも原虫の胞子が散見されるということで、微粒子病を防ぐために原原種は消毒洗浄した桑葉で飼育されていた。

また広西の各市、県、農業局などの蚕糸指導者はほとんど此処で教育を受けており、少なくとも現在の連携状態はうまくいっているようである。

蚕種製造・催青管理・稚蚕共同飼育所

普通蚕種の製造販売にはほとんど制約がないので、極端な言い方をすれば誰でも参入できる。1枚(16g、約25,000粒?)約20円で売られるらしいが、この価格は浙江省、江蘇省の半値である。さらに自由競争であるから安売り合戦となり、蚕種の量と質が安定的に需給されるとは限らないのは当然かもしれない。微粒子病の基準は0.5%とされているが、コンプライアンスが徹底されているとは考えにくい。あいにく蚕種製造作業中の現場を見る機会はなかったので、一連の作業が几帳面に行われているかどうかは知ることができなかった。

柳城県蚕種催青服務中心で催青管理状況

を見たところ、催青センターと称するだけあって、催青室の温湿度は電子制御されていた。隣室は胚子解剖室になっていたが、実験室のようなタイプのものではなく、長机の上にポツンと顕微鏡がのっていた。催青卵は黒い布で包まれ冷蔵庫に保管されており、この状態で発送すれば孵化率は95～98%だという。施設の消毒は、春にホルマリン消毒をおこない、他はさらし粉を使うらしい。中国ではホルマリンの使用は禁止されていないが、めんどうだから使いたがらないという。

稚蚕共同飼育所としては、柳城県六源小蚕共育専業合作社という最も近代的なところを見て欲しいとのことだった。この施設は一度に600枚分の1～3齢蚕が飼育可能で、秋だけで6,300枚分飼育するという。年間では22回掃立てるというから、合計すると13,200枚分の稚蚕を飼育することになる。飼育室の温湿度は自動制御されており、此处で9日間飼育された3齢蚕は1/4、1/2、3/4、1枚分の木枠で配蚕する。価格は蚕種1枚分で110元とのことである。

この稚蚕共同飼育所では、現在自動飼育機が試作されており、500㎡で12,000枚分の稚蚕を飼育する計画になっている。大部屋を温水噴霧によって温湿度調節し、12段に積み重ねた飼育箱が平面軌道回転するような仕組みであった。これで人件費を80%減らすことができるという。さらにこれを改良して壮蚕自動飼育機を考えているようだった。勿論すべて桑葉育である。



繭が高値でうれしい養蚕農家

養蚕農家・製糸工場

より多くの養蚕農家を見たいと思っていたが、向こうの都合で難しかった。今回訪れた横県の農家と柳城県の農家は、壮蚕のみ年間12～13回飼育する農家で、既に住宅も立派なものに建て替えられていた。横県は条件のよい平地で、稲、ジャスミン、サトウキビなどの栽培が盛んであるが、養蚕にも有利で、この秋の繭は28元/kgで売れるという。これには驚かされた。訪れた地域は7万戸の農家で1戸当たり約370kgの繭を生産していた。約33.3アールの桑畑で40枚分の壮蚕飼育をするというこの農家は、コンクリート床面での全葉平飼いでも季節のせいか乾いており、上簇はボール紙区画簇を丸太で吊すので、発育がそろってさえいけば問題はないように見受けられた。かつての花簇が放置されていたこの農家の女性は5齢4～5日目の

蚕に給桑していたが、嬉しそうで始終ニコニコしていた。

柳城県の農家は約 67 アールの桑畑で 1 回に 3 ～ 4 枚分の壮蚕を飼う養蚕を年に 12 ～ 13 回するが、桑の収穫は近所の農民を日当 30 元? で雇っているという。現在の繭価は 24 ～ 25 元とのことであったが、この農家の上族環境はかなり悪かった。吊されたプラスチック簇の営繭がほぼ終わったものから、蚕座に置かれた簇の上を這い回るものまで不揃いで、かなりカビ臭かった。

来賓市の忻城県は 99 % がチワン族で、ほとんど肥育牛と養蚕の複合経営が行われているとのことであった。この地方は表土が少なく桑の生長が悪いので、倫 40 という品種の接ぎ木苗が使われているそうである。1 軒で 10 頭ほどの肉牛を飼っていたが、桑条の粉末を与えると肉質が良くなるので、収益は牛で 1 万元、繭で 6,000 元ほどあるという。もう 1 軒の農家では、乾繭屋さんが来て繭取引が行われていた。繭の粒は良さそうだったが、湿ったまま収繭されており、未蛹化繭も含まれていた。取引価格は教えてくれなかったが、仮渡金らしい紙幣を持った主人は満足そうだった。

製糸工場は現在 70 以上もあるが、'09 年秋の生糸の価格は 1kg 200 ～ 300 元（前年は 160 ～ 180 元）と高騰しているという。かつて木下晴夫氏（農業生物資源研究所）が指導したという横県桂華繭絲綢有限責任会社と山東から来た社長が経営する宜州市恒業繭絲有限責任会社を見せてもらった。ともに 1 日 2 トンもの生糸を生産す

る工場である。乾繭は 2.7 トンを 1 トンへ、1.7 トンを 600kg へという説明から、やはり湿った繭を集繭していることが窺える。選除繭は 8 ～ 10 %、不良繭は 80℃ 処理し、玉繭に混ぜて繰糸するらしい。解じょ率は相変わらず低く春繭・秋繭では 60 ～ 65 % であるが、他の蚕期では 50 % 以下になるという。格下の糸なら煮繭前に高温で処理して、5 % ほど解じょ率を上げるとのことであった。今は繭代が高くて赤字というが、それでも女工さんの月給は上海あたりの平均給与とほぼ同じ 1,900 元だということからかなり高い。広西の生糸は浙江経由で輸出されるので不利に扱われるそうで、製糸会社は直接の輸出ルートを持ちたいと切望していた。

関連企業

残条や蚕糞蚕沙の資源化は、環境問題としても意識されていた。農家によっては家庭用メタンガスに利用することもあるが、新しい会社が設立されて残条によるキノコの菌床栽培、蚕糞蚕沙による堆肥作りや葉緑素の抽出などが行われていた。広西では 7 月と 12 月に条伐採をするが、量が多いので放置すると環境問題になるらしく、キノコ栽培なら年間を通して遮光ビニールハウスで栽培でき、市価の半値で出荷できるという。さらに使い終わった菌床は、桑畑へ肥料として還元するというので、リサイクルシステムとして高い評価を得ている。

蚕糸関係の設備や機器は自動制御システムに改良されつつあるが、これらを一手に

引き受けているのが柳州市自動化科学研究所である。工場全体の環境管理、生産管理などで 30 年のキャリアを持つ会社であるが、数年前から蚕糸関係に進出したという。自動繰糸機のいろいろな工程のコンピュータ管理などで 5 件の特許を持ち、催青室や稚蚕飼育室などの温湿度管理、蚕業技術推广總站の育種用活蛹繰糸機などの実績がある。先述の自動稚蚕飼育機の試作機を作ったのもこの会社である。若い人材が多く、自信と活気に満ちていた。



繭検定用知能型活蛹繰糸機

広西蚕糸業の課題

中国一の産繭量を誇る広西壮族自治区の蚕糸業にも課題がある。世界経済の中心が市場経済であり、競争社会が普遍的な世の中で、経済発展を続ける中国も例外ではあ

り得ない。養蚕農家と製糸会社間で起こる需給バランスと価格の急変は、経営面から見て不安定過ぎるのに適切な指導がなされていない。同様なことは蚕種についても言えることである。「蚕糸に関わるすべての人々が安定した生活をいとなむことができるような利益配分」こそが、広西蚕糸業の持続的な安定成長を保証するだろう。

広西蚕糸の弱点はその質であるといわれている。南亜熱帯であるという自然条件や繭検定制度が十分普及していないなどの理由はあるが、「優良繭を生産すれば生糸の質がよくなるので、養蚕農家も製糸業者も高収入が得られる」という教育・指導、簡潔な繭の品質評価と価格形成システムの確立ができれば、改善できるかもしれない。自治区としても量から質への転換期にあるのではないだろうか。また、直床式蚕座とか上簇方法・環境などを改善すれば、現在の蚕品種で解じょ率を 10% 程高めることは不可能ではないように思われる。適期収繭を徹底して、湿り繭や未蛹化繭を出荷させないことも大切である。

この他、蚕種量が 1 枚 (16g 土?) という曖昧さの是正、微粒子病汚染蚕種の徹底廃棄、豊富な労働力の有効利用など、再検討し改良すべき事項がまだまだありそうだ。

国内産地情報

絹織物産地の概況(11月)

各産地の織物生産は前月より増産になったが前年を上回る迄になっていない

<原糸>

輸入糸は先高を見越したようなオファー価格が出ている。しかし、織物価格は値上げしにくく、年内に必要な原料は積極的に手当てされる場面もみられたものの、先行きについて慎重な対応である。

<白生地>

- ・丹後の縮緬生産は、前年比 89% で、無地 87%、紋生地 89% と共に前月比では上回った。しかし採算は悪く今後営業規模の縮小が続くことが予想される。
- ・長浜の生産は、前年比 87% で原料の先高感から黒用変わり織に引き合いが見られ十月よりは増産となった。
- ・五泉の生産反量は、全体に動きが悪く生産は前年比 18.4% の減少であった。
- ・福島は、和装、スカーフともに市況の悪化で低調で、見込み生産も顕著となり在庫も増加傾向にある。
- ・石川は、和装、洋装共に相変わらず悪いが中近東向け合織洋装には注文がある。
- ・福井は、生産は減少し広幅は前年比 20% の減。小幅は 40% の減で原料高で値上げの要望もあった。
- ・群馬・埼玉は、群馬ではここ数カ月、生産の前年対比が上回っているが昨年実績が悪かった事に起因している。原料高とは言え逆ザヤでも応じなければならず苦慮している。

<先染織物>

- ・西陣の帯は、地方問屋の売出しがあり、値頃のハデ物はそこそこ売れたようである。しかし、原料高騰を転嫁できず採算は厳しい。
- ・博多は、紋織は袋帯、紋八寸と良いが平地は芳しくない。求評会での商いが影響している。
- ・十日町は、つけ下げが大幅ダウン、訪問着、留袖が続いている。
- ・米沢は、呉服は着尺、帯、袴等が大変厳しい状況で現物が動かない。
- ・山梨は、服地は若干前年より少なめながら動いている。ネクタイは、一部 クイックの発注が入ったが、量は少なく短期間の注文であった。
- ・西陣のネクタイは、春夏物の実需期であるが、ロートサイド店向けは 10 月で終わっており、百貨店等ブランド向けが 11 月後半より少し動き始めた。

＊（社）日本生糸問屋協会月報 21.12.15 第 728 号による。

海外シルク情報

中国

中国シルクの急成長分野であるシルク布団の事情について

中国シルク業界最大の業界団体である中国シルク協会（会員は企業、研究機関・団体約 500 社）では、本年 9 月 26 日、江蘇省呉江にて新たな下部組織として「シルク布団部会」の成立大会を華々しく行った。

シルク布団に関しては、中国では結婚式の嫁入り商品として昔からあるものであるが、最近の高い経済成長に伴いここ数年間にその需要が急成長し、同時に生産規模が大きく拡大してきた産業分野である。

同協会が伝える情報によれば、現在、中国でシルク布団の生産・販売関係企業は 1,000 社近くあり、その年間生産量は 700 万枚を既に越しており、これは 2000 年度に比較して 5 ～ 6 倍に急増しているとのことである。

また、これを生糸消費量に換算すると、約 15,000 トン（＝ 25 万俵）となり、中国国内で消費する総原料繭の約 30% に相当するものになり、今後さらに拡大する傾向にある。

このように、生産規模が急増してきた背景には、シルク布団の生産方式が、伝統的な手工業規模から最新機械方式に転換可能となった技術革新があり、また、品質面では、既に 2001 年にシルク布団の業界基準を定めてきており、今回、これを更に改訂し、国家基準レベルに格上げして品質保持に努める体制を整えている。さらに、シルク布団の著名な生産地である浙江省の桐郷（元来、養蚕・製糸地帯であり桑苗の生産地として有名）を「模範シルク布団生産基地」と命名したとともに 2007 年には国家品質監督検閲検疫総局の認定による中国ブランド品リストにシルク布団が入り、7 つのシルク布団関係企業の製品に「中国ブランド品」の称号が与えられている。

中国シルク産業は、昨年からの世界同時経済不況の影響から海外からのオーダーは減少し輸出は前年比で低迷しているが、内需は回復に向かっており、これの牽引役として大きく貢献しているのがシルク布団といえよう。

2009 年 1 ～ 9 月の中国シルク輸出状況

最新中国海関（税関）統計によれば、本年 1 ～ 9 月の純シルク商品輸出状況は、総輸出金額 21.1 億ドルで対前年比 21% 減少であり、引き続き低迷している。

主要品目別の輸出状況は、次のとおりである。

①生糸など蚕糸原料類：輸出額 3.65 億ドルで対前年比 28%の減少

②絹織物：輸出額 5.58 億ドルで対前年比 12%の減少

③シルク製品：輸出額 11.9 億ドルで対前年比 23%の減少

対主要輸出市場別にみると、減少幅でみてインド向けが対前年比僅か 1.2% と一番少なく、これ以外の主要市場は軒並み 2 割以上減少しており、中でも香港向けは 38%も減少し最大の減少幅となっている。ただし、パキスタン向けは蚕糸原料（絹紡糸が主体）が好調で健闘しているところである。このため、インドとパキスタンの両市場は、中国シルク輸出の「白衣の騎士」（救世主の意味）と呼ばれている。

中国の輸出産地別にみると、主要産地の江蘇省が対前年比 28%減少して最大の減少幅となり、最も減少幅の少なかったものは四川省で、その減少率は 8%となっている。

このように現況、低迷する中国シルク輸出事情であるが、今後の見込みについて関係繊維企業（17,163 社）に対するネットによる調査結果によると、その 38%の回答が「年が明けて来年度になってやっと国際経済環境は好転する。」と判断しており、別の 35%の回答は「現況、シルク輸出は底を打ったと見ていない。」と判断しており、調査対象の半数以上は、現状の海外等の外部環境について悲観的な見方をしている。その理由として挙げられていることは、海外の需要・購買力不足であり、加えて最近の中国生糸の価格高騰など輸出原価をアップさせている要因が、繊維企業のシルク輸出の安定化に大きく影響を及ぼしている姿がうかがえる。

＊日本生糸問屋協会月報 21.11.16 第 727 号及び 21.12.15 第 728 号による。

横浜村の様子と生糸貿易の始まり

シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

1 開港前後の横浜村

開港場に決まった横浜村はどうだったでしょう。村の様子についてみてみましょう。

開港場に決まった横浜村には、半農半漁の101戸の農家が、生活をしておりました。開港場に決まると、閑静な村はにわかに騒がしくなりました。

幕府は横浜村の住民を強制的に移転させ、開港場として整備をしました。

横浜村の住民たちは、村ぐるみで開港場に隣接する山手の丘の麓の本村ほんむら（現在の横浜市中区元町もとまち）へ移りました。間もなく居留地と本村の間には、堀川が掘られましたので、住民たちは山すその細長い土地に追いやられ、農業や漁業の場を失ってしまいましたので、幕府から支給された補償金を元手にして、新たな仕事を始めだしました。

現在の商業の街「元町」は、横浜村の人たちの移転によって始まったのです。

2 好運だった生糸貿易の始まり

横浜が開港したころ、ヨーロッパでは蚕びりゅうしびょうの微粒子病（微胞子虫による蚕の伝染病）がまん延し、生糸が不足し困っておりました。

例えばフランスの場合についてみると、1853年の繭生産量は約2,600万kg

ありましたが、微粒子病のまん延によって1865年には、約550万kgという盛んな時期の5分の1ほどに減少してしまいました。

イタリーの場合についてみますと、蚕糸業の盛んなシシリアやカラブリア地方の1850年ごろの年平均生糸生産量は、約16～18万kgありました。ところが微粒子病のまん延によって1865年には約8万6000kgに半減してしまいました。

このようにヨーロッパでは蚕の不作によって生糸が大変不足をしていました。

この不足を補うため、海外からの輸入を望んでいましたが、生糸輸出国であった清国しん（現在の中国）は、アロー戦争（清国とイギリス・フランスとの間に起きた戦争）や太平天国の乱（アヘン戦争後、重税に苦しんで立ち上がった農民の乱）のため、上海貿易が停止しており、清国産の生糸を輸入することはできませんでした。

このような国際情勢の中で、横浜を開港しましたので、生糸貿易面からみると、わが国にとっては、大変好運な生糸輸出の始まりとなりました。

日本産の生糸が、初めてロンドンの市場に出た時には、当時、ヨーロッパで知られているどこの産地の生糸よりも優れている

ことが認められ、横浜からの生糸輸出が盛んになったといわれています。

横浜に来た外国の商人たちは、品質がよく価格の安い日本産の生糸に飛びつき、大きな利益を上げました。日本側にとっても、外国商人が法外な高値で生糸を購入してくれるので、第1表からも分かるように、大きな利益を上げることができました。しかし、外国商人が高額で購入するという風潮が広まり、第2表のように地方価格が横浜取引価格を大幅に上回ることもしばしばあり、日本人商人たちは、大きな損失をすることもありました。

第1表 開港当初の生糸価格（対100斤）

年次	横浜での 売込相場	前橋提糸 相場	前橋地方 相場
安政6年	241両	133両	133両
万延元年	337	213	213

日本蚕糸業史第一巻「生糸貿易史」より作表

第2表 地方生糸価格の高騰例（対100斤）

年次	横浜での 売込相場	前橋提糸 相場	前橋地方 相場
慶応3年	567両	593両	582両

日本蚕糸業史第一巻「生糸貿易史」より作表

また、ヨーロッパの経済情勢により必ずしも生糸の高額な取引が常に行われたわけではありません。しばしば生糸の暴落があり、投機的な生糸取引を行っていた日本の生糸売込商は、大きな損失を抱え横浜を去った人が多くおりました。

3 横浜1港に集中した輸出用生糸とその主な生産地

横浜を開港したものの、外国の商人（以下、

外商という）にとっても日本の商人にとっても、お互いに何が取引できるのか全く分かりませんでした。

開港当初の外商は商館を持たないで、船に寝泊りして取引を行っていました。

日本人の商人たちは、金属製品、生糸、絹織物、木綿織物、水油、蠟、麻、米麦等の食料品、漆器、陶器などを無造作に土間や棚の上に置いて外商の様子をうかがっていたといわれています。

外商たちは、このような日本人商人の店先から、すばらしい生糸のあることを見出し、高値で買うようになりました。

外商が高値で生糸を取引することは、たちまちのうちに広がり、国内各地からたくさんの生糸（明治時代に入って製糸工場が発達するまでは、各養蚕産地の農家が自宅で繭から糸を繰り、この生糸を集荷業者に庭先販売した）が集められ、横浜開港場へと運ばれ、わが国の重要な輸出品として外貨を稼ぐようになりました。

わが国は江戸時代に、海外へ金銀銅が大量に流出したため、これを防ぐため生糸の輸入を規制し、国内での蚕糸業の普及に努めてきましたので、開港した時には、各地に養蚕や織物の産地の基盤が形成されていました。

生糸は、これら養蚕産地で買い集められ、横浜へと運ばれてきたのでした。横浜にとっては、すでに生糸生産の後背地ができていたというわけです。

開港当初の文久年間（1861～1863）に売り込まれた生糸量をみると、奥州・羽州合わせて全体の売込量の約46%、上

州が約 21%、信州が約 10%で、これらの地帯で 77%を占めていました。武州、甲州などもそれぞれ約 5%を占めていましたので、このように東北、関東、甲信地方（図 2）が開港当初の大きな産地になっておりました。

これらの地帯は、明治はじめになると更に生産量を伸ばし、売込量の約 94%を占めるようになっていきました。

明治 10 年代後半になりますと、信州と



図 2 開港当初ごろの主要養蚕地帯

上州の生産量が大幅に伸び、一大生産地を形成するようになりました。

このように生糸輸出が盛んになるにつれ、養蚕業は国内に広く普及し、わが国の

主要産業として取組まれるようになっていきました。

4 生糸輸入国の移り変わり

開港当初に横浜へ入港する船は、イギリス国籍の船舶が非常に多く、輸出・輸入額は群を抜いて大きく、1864（元治元）^{げんじ}年の事例でみると、輸出額の約 97%、輸入額の約 85%を占めていました。

生糸は輸送力の優るイギリスが大量の生糸を運び、ヨーロッパでは当初ロンドンで生糸の取引が、盛んに行われていました。

しかし、1869（明治 2）年、スエズ運河が開通すると、生糸を運ぶ船は地中海に入り、フランスのマルセイユ港で積荷をおろすようになり、リヨンでの生糸取引が盛んに行われるようになっていきました。

明治 10 年代後半になると、アメリカがわが国の生糸輸出量の 50%以上を買占めるようになり、輸出先はヨーロッパからアメリカへと変わっていくようになりました。

このようにアメリカに輸出先が変わった理由は、ヨーロッパでは多少質が落ちてても安い清国産生糸を、アメリカは多少高くても質の良い日本産生糸を使い、生産性を高めたいという産業構造上の問題があったといわれています。

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
日本絹の里第48回特別展 まゆクラフト作品展2009	カイコが糸を吐き始めてから繭を完成させるまで、約3日かかります。その間、カイコは繭の内側で何度も方向を変えながら、休むことなく糸を吐き続けます。そうして完成した繭は驚くほど丈夫で、独特の優しい丸形をしています。今回の展示ではそんな繭の丸みや、表面の凹凸など、繭の特性を活かして作るまゆクラフト作品を一般公募し、まゆクラフトの魅力を皆様にご紹介します。 観覧料：一般200円(160円)、大高生100円(80円) ()内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成21年11月28日(土)～22年1月9日(土) AM9:30～PM5:00 (火曜日休館、12月27日～1月5日は休館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinuno-sato.or.jp 後援：農林水産省、群馬県、(財)大日本蚕糸会、中央蚕糸協会、(社)日本絹業協会、(社)日本生糸問屋協会等
かいこの観察記録展示会	シルク博物館では5月に小学校を中心に、教材用蚕種を配布し、夏休みには「かいこの自然科学教室」を開催しています。蚕を育てた小学校では蚕の飼育観察から生まれる子どもたちの感性豊かな飼育記録作品などの発表が行われています。シルク博物館ではクラスの仲間と協力し、アイデアを生かし工夫をしながら作られたこの観察記録作品を一堂に展示することにより、自然の営みの素晴らしさ、自然との共存することの大切さなどを再認識する機会とし、さらには学校相互の情報交換の場となるよう、総合的な学習を支援することを目的に本展示会を開催します。 入館料：一般500円(400円)、大高生200円(150円)、65才以上300円(200円)小・中学生は無料 ()内は、団体割引(20人以上)の料金	平成21年11月21日(土)～22年1月11日(月) AM9:00～PM4:30 (年末年始12月28日～1月4日休館)	会場・主催・お問合わせ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町1番地(シルクセンター2F) (みなとみらい線 日本大通り駅下車3番出口) Tel:045-641-0841 http://www.silkmuseum.or.jp/
第9回 群馬の絹展 ～絹の郷ぐんまで本物とのふれあい～	「繭と生糸は日本一」・群馬県は、良質の生糸から絹製品まで一貫して作られる絹の郷です。この群馬県産の生糸を使用し、永い歴史と伝統に培われた染織手法や最新の技術を駆使して製作した着物、帯、スーツ、ジャケット、セーター、スカーフ、靴下、タオル、雛人形など多様な絹製品を展示、紹介します。併せて多彩な関連イベントを開催します。 入場料：一般200円(160円)、大高生100円(80円) ()内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成22年1月14日～18日(月) AM9:30～PM5:00	主催：群馬の絹活性化研究会 会場：群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 共催：(財)群馬県蚕糸振興協会 協力：群馬県蚕糸技術センター 後援：群馬県、上毛新聞社等
「シルクでリアルリックス」のシンポジウム&試作展示会開催	シルクは日本人の感性が凝縮されている天然繊維です。消費者のシルクイメージ転換の誘発、惹いては新たなビジネスへの展開に資するため、「シルクでリアルリックス」をテーマとしてシンポジウム&試作作品展示会を開催します。 入場無料、シンポジウムについては事前に事務局あて登録が必要 *リアルリックス：現代の日常の贅沢(幸福感)の意味	◆シンポジウム 平成22年1月26日(火) 14:00～17:00 開催場所：「泉ガーデンコンファレンスセンター」東京・港区六本木1-6-1泉ガーデンタワー7F ◆試作作品展示会 平成22年2月8日(月)～10日(水) 開催場所：「Rin」東京・港区北青山3-6-26、3F	主催：日本繊維輸入組合 シルク価値創造ジャパンビジョン具現化検討委員会 Tel:03-3270-0791 Fax:03-3270-0795 メールアドレス 0037@jtia.or.jp (横山宛)
名古屋で純国産絹製品展	国産の繭・生糸の特徴、希少性を生かした純国産絹製品の展示会を開催し、つくり手の顔が見える純国産絹マークの添付した絹製品を広く普及・PRいたします。(入場無料)	平成22年3月4日(木)～9日(火) 3月4日～8日は10:00～19:30 最終日は10:00～17:30	会場：名古屋・丸栄 主催：(社)日本絹業協会 Tel:03-3214-1691 Fax:03-3214-1700

純国産絹マーク使用許諾者一覧

純国産絹マーク使用許諾者一覧

平成 21 年 12 月 9 日現在

No.	企業名	同左代表者名	
1	株式会社 千總	代表取締役	西村 總左衛門
2	株式会社 織匠田歌	代表取締役	曾根 武勇
3	有限会社 ミラノリブ	代表取締役	笹口 晴美
4	株式会社 丸上	代表取締役社長	上達 征次
5	株式会社 坂本屋	代表取締役	飯塚 久二
6	有限会社 平原	代表取締役	平原 隆志
7	株式会社 信盛堂	代表取締役	神部 健一
8	株式会社 きのもアイ	代表取締役	吉澤 政敏
9	株式会社 上庵	代表取締役	川内 俊秀
10	有限会社 樹	代表取締役	須藤 勲
11	株式会社 銀座もとじ	代表取締役	泉二 弘明
12	河瀬満織物 株式会社	代表取締役社長	河瀬 仁志
13	有限会社 織匠小平	代表取締役社長	小平 真滋郎
14	門倉メリヤス 株式会社	代表取締役	門倉 重行
15	株式会社 結華	代表取締役	橋本 順一
16	株式会社 絹回廊	代表取締役	糸井 敬之
17	有限会社 琴路屋	代表取締役	北山 充伯
18	有限会社 大善屋呉服店	代表取締役	畑 恒夫
19	丸善本店		櫛田 幸造
20	呉服のささき		佐々木 孝一
21	日本蚕糸絹業開発共同組合（絹小沢 株式会社）	代表理事	小林 幸夫
22	宮階織物 株式会社	代表取締役社長	宮階 有二
23	21世紀の絹を考える会	代表世話人	石田 克己
24	碓氷製糸農業協同組合	代表理事組合長	高村 育也
25	丸幸織物 有限会社	代表取締役	谷口 惣一郎
26	織匠 万勝		前田 章
27	有限会社 織道楽塩野屋	代表取締役	服部 芳和
28	株式会社 丸万中尾	代表取締役社長	中尾 禧夫
29	株式会社 むらかね	代表取締役	村井 謙一
30	株式会社 高島屋	代表取締役	鈴木 弘治
31	株式会社 さが美	代表取締役社長	小野山 晴夫
32	有限会社 まるけい	代表取締役	高井 友樹
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	代表取締役	後藤 義昭
34	株式会社 小いけ	代表取締役	小池 泰弘
35	株式会社 伊と幸	代表取締役社長	伊藤 公一
36	株式会社 四季のきものおおにし	代表取締役	大西 嘉夫
37	株式会社 和幸	代表取締役	高澤 みゆき
38	株式会社 栴屋高尾	代表取締役	高尾 弘
39	株式会社 つるや	代表取締役	金子 憲二
40	株式会社 越後屋	代表取締役	越永 高士
41	株式会社 小倉商店	代表取締役	小倉 敏行
42	柳染織工房		柳 崇
43	染織家		児玉 京子
44	草木染工房山村		山村 多栄子
45	手織り よおん		長嶺 亨子
46	祝嶺染織研究所		祝嶺 恭子
47	株式会社 龍工房	代表取締役	福田 隆
48	からん工房		深石 美穂
49	たわた工房		多和田 淑子
50	山音 株式会社	代表取締役社長	山田 純司
51	やまと 株式会社	代表取締役	村田 市太郎
52	株式会社 御菌織物	代表取締役	加藤 賢一
53	桜井 株式会社	代表取締役	桜井 実
54	有栖川織物 有限会社	代表取締役	澤井 正弘
55	太田和 株式会社	代表取締役	太田 馨
56	株式会社 岩田	代表取締役	村田 知之
57	有限会社 神原呉服店	代表取締役	神原 和久

No.	企業名	同左代表者名	
58	浅山織物 株式会社	代表取締役	浅山 寿栄男
59	株式会社 やまと	取締役社長	矢嶋 孝敏
60	田中種 株式会社	代表取締役社長	田中 隆
61	株式会社 京扇	代表取締役	鈴木 康裕
62	株式会社 なごみや	代表取締役	松本 成央
63	丸池藤井 株式会社	代表取締役	藤井 博夫
64	久保商事 株式会社	代表取締役	久保 義昭
65	加賀グンゼ 株式会社	代表取締役	松井 慎一郎
66	千切屋 株式会社	代表取締役	熊谷 喜治
67	荒川 株式会社	代表取締役	荒川 慶一
68	第一衣料 株式会社	代表取締役	金子 守隆
69	株式会社 紅輪	代表取締役	丸山 実
70	装いの道 株式会社	代表取締役	山中 英靖
71	株式会社 高橋屋	代表取締役	高橋市郎兵衛
72	おお又 株式会社	代表取締役	大又 義弘
73	株式会社 天野屋呉服店	代表取締役	天野 晃作
74	株式会社 きもの潮見	代表取締役社長	潮見 憲一
75	株式会社 とみひろ	代表取締役	富田 浩志
76	株式会社 細安	代表取締役	小林 慎二
77	京和きもの 株式会社	代表取締役	高橋 忠臣
78	株式会社 まるため	代表取締役	小池 正司
79	株式会社 小川屋	代表取締役	荒木 俊
80	株式会社 エムラ	代表取締役	江村 栄治
81	株式会社 荒井呉服店	代表取締役	荒井 芳枝
82	株式会社 牛島屋	代表取締役社長	武内 保衛
83	株式会社 谷呉服店	代表取締役社長	谷 重臣
84	株式会社 登美屋	代表取締役社長	高橋 祥元
85	株式会社 川平屋	代表取締役	伊藤 正人
86	丸専第一衣料 株式会社	取締役社長	永澤 日佐夫
87	株式会社 大丸	代表取締役社長	山本 良一
88	西陣織工業組合	理事長	渡邊 隆夫
89	株式会社 あきやま	代表取締役社長	秋山 典子
90	藤井絞 株式会社	代表取締役社長	藤井 浩一
91	株式会社 川まん	代表取締役社長	川口 徳恭
92	有限会社 結城屋	代表取締役社長	大久保 善章
93	株式会社 ウメショウ	代表取締役	梅田 一
94	株式会社 大徳	代表取締役	住矢 くに
95	有限会社 カシワギ	代表取締役社長	柏木 幹弘
96	株式会社 北尾織物匠	代表取締役	北尾 清常
97	株式会社 平田組紐	代表取締役	平田 晃
98	株式会社 菱健	代表取締役社長	古川 貴士
99	西野株式会社	代表取締役	西野 宏
100	京商株式会社	代表取締役社長	安岡 菊枝
101	株式会社 猪井	代表取締役	猪井 一之
102	株式会社 たちばな	代表取締役	近 文雄
103	株式会社 丸富美	代表取締役	丸山 忠一
104	株式会社 絹もの屋まつなが	代表取締役	松永 一義
105	株式会社 山正山崎	代表取締役社長	山崎 正平
106	有限会社 こくぶん呉服店	代表取締役	國分 誠一
107	株式会社 染織近藤	代表取締役	近藤 典博
108	株式会社 宮川呉服店	代表取締役	宮川 勝彦
109	株式会社 和らいふ	代表取締役	土屋 登巳雄
110	有限会社 きものいなもと	取締役社長	稲元 五郎

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 21 年 8 月 17 日現在

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シヤパ[®]シルクセンター)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会
東京穀物商品取引所

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafts.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>
<http://www.tge.or.jp/JApanese/index.shtml>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科
<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科
<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>
(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程
<http://www.bio.kit.ac.jp/>
(国) 京都工芸繊維大学
<http://www.kit.ac.jp/>
(国) 信州大学繊維学部
<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>
(国) 名古屋大学農学部
<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学講座
http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html
(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>
(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻
http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース
<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科
<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(独) 農業生物資源研究所
<http://www.nias.affrc.go.jp>
(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所
http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所
http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html
群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545
群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241
京都府織物・機械金属振興センター
<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
京都市産業技術研究所繊維技術センター
<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	56
(2) 養蚕業の概要	57
(3) 養蚕農家数の推移	58
(4) 収繭量の推移	59
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量（2008年）	60
(6) 蚕品種別蚕種製造数量（2008年）	61
(7) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	62
(8) 生糸生産数量の推移	63
(9) 生糸の織度別生産数量の推移	64
(10) 国内生糸価格実態	65
(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	67
(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	68
(13) 製糸工場の原料繭需給	69
(14) 器械製糸工場の操業状況	70
(15) 生糸在庫数量の内訳	71
(16) 蚕糸関係品目別輸入状況	72
(17) 生糸原産国別輸入状況	73
(18) 絹糸原産国別輸入状況	74
(19) 織物生産状況	75
(20) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産状況	76
(21) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	77
(22) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	78

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	79
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	80
(3) 中国省別桑園面積、家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	81
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	82
(5) 中国のシルク類（生糸、絹糸、絹織物）の輸出状況	83
(6) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	84
(7) ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況	85

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
昭和50年 1975	248,400	91,219	367	333.9	123	87	311.3	156,494
55年 1980	165,590	73,061	441	267.6	105	81	279.2	143,708
60年 1985	99,710	47,274	474	158.6	67	87	212.5	107,499
平成3年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
4年 1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
5年 1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
6年 1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
7年 1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
8年 1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
9年 1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10年 1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11年 1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12年 2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13年 2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14年 2002	2,360	880	373	6.5	7	68	51.2	26,826
15年 2003	2,070	780	377	4.8	6	64	48.7	23,935
16年 2004	1,850	683	369	4.4	5	62	45.6	21,895
17年 2005	1,591	626	393	2.5	2	62	43.7	19,816
18年 2006	1,345	505	375	2.0	2	83	41.6	18,507
19年 2007	1,169	433	370	1.8	2	83	40.0	15,466
20年 2008	1,021	382	374	1.6	2	80	38.1	13,913
前年対比 (%)	87.3	88.2	101.1	88.9	100.0	96.4	95.3	90.0

資料・養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。

ただし、平成13年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査である。

・絹業は経済産業省調査によるものである。平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況である。

Source: The Regional Products and Industrial Crops Division, Agricultural Production Bureau,
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)
The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)
The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills.

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項 目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
年 次 Year	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07 (%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)

(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(4) 収繭量の推移

Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量(年間) Cocoon production per farm harvested area of mulberry
		年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
	1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
	1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
	1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
	1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
	1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
	1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
	1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
	2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
	2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
	2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
	2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
	2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
	2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
	2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
	2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
	2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
	対前年比 2008/07(%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
	構成比(%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～)。

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item 県別 Each Prefecture	年 計			春 繭		初秋繭		晩秋繭	
	Annual total			spring silk-worm		Early autumn silk-worm		late autumn silk-worm	
	養 蚕 農家数	桑使用 面 積	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩 手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮 城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山 形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福 島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨 城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃 木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群 馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼 玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千 葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12	..	2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山 梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長 野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐 阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳 島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛 媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊 本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば・ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料 : 農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply and Demand Balance, Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2002	6,521	31,702	—	37,265	25,955	28,089	124	12,248	6,843
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,964	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,654	7,126
生糸年度 Silk Year									
2002	5,953	30,510	—	35,462	26,794	28,150	154	11,747	6,986
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2008 - 8	119	1,129	—	1,231	5,320	2,311	20	916	514
9	115	1,134	—	1,185	5,384	1,979	15	941	590
10	122	1,280	—	1,823	4,963	1,451	57	885	670
11	108	682	—	967	4,786	1,518	53	809	686
12	118	684	—	1,004	4,584	1,065	9	706	525
2009 - 1	101	1,004	—	1,115	4,574	1,281	5	1,090	400
2	109	516	—	989	4,210	801	6	424	581
3	111	921	—	880	4,362	1,213	19	730	591
4	111	529	—	797	4,205	1,459	26	834	574
5	91	1,379	—	1,517	4,158	1,092	33	727	526
6	101	800	—	1,218	3,841	1,363	54	900	514
7	94	927	—	957	3,905	1,656	49	793	504
8	88	921	—	847	4,060	1,646	37	683	469
9	94	1,174	—	1,107	4,221	1,526	31	603	448
09.1~09.9	900	8,171	—	9,434	4,221	12,036	260	6,784	4,607
08.1~08.9	1,240	12,385	—	16,321	5,384	18,603	347	9,259	5,245

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量 (D) = { 前月在庫数量 + (A) + (B) } - { (C) + (E) }。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries (D) = { Stock at end of the previous month + (A) + (B) } - { (C) + (E) }.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸生産数量の推移

Production of Raw Silk

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

項 目 Item	生 糸 及 び 玉 糸 Raw Silk and Doupion Silk					繭品質評価機関 Cocoon Quality Grading Stations
	計 Total	器械製糸 Machine Reeling Mills	国用製糸 Domestic Raw Silk Reelers	及び &	器械玉糸 Machine Reeling Mills	
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2002	6,521	5,617		904		・ ・
2003	4,791	4,000		791		・ ・
2004	4,387	3,634		753		・ ・
2005	2,508	1,735		773		・ ・
2006	1,956	1,417		539		・ ・
2007	1,747	1,227		520		・ ・
2008	1,588	1,193		395		・ ・
生糸年度 Silk Year						
2002	5,953	5,128		825		・ ・
2003	4,517	3,735		782		・ ・
2004	3,868	3,110		758		・ ・
2005	2,024	1,329		695		・ ・
2006	1,794	1,285		509		・ ・
2007	1,762	1,231		531		・ ・
2008	1,378	1,108		270		・ ・
2008 - 8	119	91		28		・ ・
9	115	91		24		・ ・
10	122	99		23		・ ・
11	108	86		22		・ ・
12	118	98		20		・ ・
2009 - 1	101	83		18		・ ・
2	109	89		20		・ ・
3	111	92		19		・ ・
4	111	92		19		・ ・
5	91	73		18		・ ・
6	101	83		18		・ ・
7	94	74		20		・ ・
8	88	71		17		・ ・
9	94	76		18		・ ・
09.1~09.9	900	733		167		・ ・
08.1~08.9	1,240	910		330		・ ・

資 料 : 農林水産省生産局調査。

備 考 : 1. 生糸年度は6月から翌年5月までである。

2. kgを60kg俵に換算しているのので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. Silk year ranges from June to May of the following year.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 生糸の繊度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位 : 60kg俵)

(Unit : Bales of 60kg)

項 目 Item 年 月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
暦 年						
Calendar Year						
2002	6,521	3	429	3,178	1,937	975
2003	4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004	4,387	2	471	2,389	948	581
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
生糸年度						
Silk Year						
2002	5,953	8	316	3,273	1,649	706
2003	4,517	7	334	2,689	955	530
2004	3,868	4	482	1,845	918	622
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2008 — 8	119	—	17	36	20	47
9	115	—	25	35	30	25
10	122	—	33	36	25	28
11	108	—	20	40	20	28
12	118	—	23	50	20	24
2009 - 1	101	1	23	34	28	16
2	109	—	29	33	20	28
3	111	—	31	42	14	24
4	111	—	32	32	21	26
5	91	0	17	25	23	25
6	101	0	11	37	23	29
7	94	0	19	37	10	14
8	88	0	11	39	17	20
9	94	0	14	36	22	22

資 料 : 農林水産省生産局調査。

備 考 : kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10)国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位: 円/kg

(Unit:Yen/kg)

織度 Size	21d	27d	31d	平均 Average
平成 20 年 5 月	4,059	3,750	3,431	3,747
6 月	4,325	3,761	3,479	3,855
7 月	4,173	3,795	3,577	3,848
8 月	4,481	3,741	3,499	3,907
9 月	4,386	3,794	3,540	3,907
10 月	4,363	3,885	3,539	3,929
11 月	4,140	3,809	3,461	3,803
12 月	4,087	3,883	3,403	3,791
平成 21 年 1 月	4,209	3,652	3,374	3,745
2 月	4,020	3,695	3,380	3,698
3 月	4,160	3,655	3,139	3,836
4 月	4,400	3,665	3,167	3,744
5 月	4,318	3,402	3,243	3,654
6 月	3,917	3,499	3,068	3,494
7 月	4,106	3,562	2,914	3,527
8 月	4,186	3,841	2,912	3,646
9 月	4,150	3,627	2,986	3,588

注 :国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料:(社)日本生糸問屋協会

Remarks: Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source:Japan Raw Silk Dealers Association

(参考) 中国生糸電子取引値段
China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸 A 類(21 デニール 5A)
Standard Raw Silk :21d 、5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg ,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
10 月中	10 月	226.20	226.02	226.44	226.32
		2,941	2,938	2,944	2,942
	11 月	227.22	227.22	227.58	227.58
		2,954	2,954	2,959	2,959
	12 月	228.18	228.18	228.60	228.60
		2,966	2,966	2,972	2,972
	1 月	228.24	228.24	228.42	228.42
		2,967	2,967	2,969	2,969
	3 月	229.74	229.68	229.92	229.92
		2,987	2,986	2,989	2,989
	4 月	233.58	233.58	233.70	233.70
		3,037	3,037	3,038	3,038
	5 月	231.78	231.78	231.90	231.90
		3,013	3,013	3,015	3,015
	6 月	231.90	231.90	231.90	231.90
		3,015	3,015	3,015	3,015
	7 月	231.78	231.78	231.90	231.90
		3,013	3,013	3,015	3,015
	9 月	231.60	231.54	231.72	231.66
		3,011	3,010	3,012	3,012

	限月 Month	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
11 月中	11 月	235.95	235.95	240.83	240.83
		3,067	3,067	3,131	3,131
	12 月	237.53	237.53	243.15	243.15
		3,088	3,088	3,161	3,161
	1 月	237.68	237.68	243.30	243.30
		3,090	3,090	3,163	3,163
	3 月	239.10	239.10	245.18	245.18
		3,108	3,108	3,187	3,187
	4 月	239.55	237.05	244.43	244.43
		3,114	3,082	3,178	3,178
	5 月	237.23	237.23	242.10	242.10
		3,084	3,084	3,147	3,147
	6 月	236.78	236.78	240.83	240.83
		3,078	3,078	3,131	3,131
	7 月	234.23	234.23	237.00	237.00
		3,045	3,045	3,081	3,081
	9 月	233.78	233.78	236.48	236.48
		3,039	3,039	3,074	3,074

注:円換算レートは、1 元 = 13 円である。 Remarks: Rate 1Yuan=13Yen

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興) Source: China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

(11) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫 Ending Stocks ④
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export					内 需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second				
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
対前年比 2008/07 (%)	94	92	100	95	115	121	95	90	96	76	—	—	83	50	98	89

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”(arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(12) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2003	2004	2005	2006	2007	2008	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		3.4	2.6	2.7	3.7	3.9	2.5	64.1	1.7
	女子用外衣類 Women's upper garments		52.0	54.2	59.9	56.6	50.0	40.2	80.4	27.6
	うちブラウス Blouse of the inside		3.5	3.5	3.7	3.5	3.0	3.4	113.3	2.3
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.7	6.3	5.8	5.7	2.2	1.6	72.7	1.1
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		14.7	14.7	16.1	15.1	15.0	16.3	108.7	11.2
	ハンカチ Handkerchief		0.9	0.8	1.9	1.0	0.5	0.5	100.0	0.3
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.5	3.5	3.4	2.7	3.0	2.9	96.7	2.0
	ネクタイ類 Ties		26.1	26.4	25.2	21.4	21.6	20.8	96.3	14.3
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		18.0	19.3	19.9	18.5	21.2	19.8	93.4	13.6
	その他の洋装類 Other western clothes		24.1	25.0	26.7	26.3	25.4	23.7	93.3	16.3
洋装類計 Western clothes subtotal			14.7	152.8	161.6	151.0	143.0	128.3	74.2	88.2
和装類計 Japanese clothes subtotal			12.8	13.5	17.4	18.4	15.5	14.7	94.8	10.1
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside		9.4	10.0	14.1	16.0	12.9	12.1	106.6	8.3
その他 Others			1.5	1.5	2.1	2.5	2.5	2.4	96.0	1.7
合 計 Total			161.7	167.8	181.0	171.9	161.0	145.4	90.3	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(13) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

項目 Item 年月 Year & Month	総計 Grand Total			うち器械製糸工場 Machine Reeling Mills		
	受入数量	消費数量	期末在庫数量	受入数量	消費数量	期末在庫数量
暦年 Calendar Year	Receipts	Put in Process	Ending Stocks	Receipts	Put in Process	Ending Stocks
2002	1,559	2,150	775	1,366	1,822	708
2003	1,598	1,612	761	1,302	1,330	679
2004	1,291	1,500	553	1,039	1,228	489
2005	866	830	589	540	552	478
2006	600	646	541	405	445	436
2007	548	581	505	345	390	391
2008	393	518	379	296	374	311
生糸年度 Silk Year						
2002	1,921	1,972	525	1,764	1,674	480
2003	1,477	1,554	448	1,162	1,273	368
2004	1,056	1,280	224	794	1,008	154
2005	839	673	390	531	419	266
2006	562	599	349	405	410	260
2007	502	583	266	344	388	215
2008	406	452	224	303	351	167
2008 — 8	54	39	359	53	29	284
9	28	37	350	27	28	283
10	82	38	417	80	30	333
11	60	36	486	36	28	342
12	△ 1	37	379	△ 1	30	311
2009 — 1	4	34	354	0	27	283
2	△ 2	36	320	△ 2	29	253
3	10	39	291	0	31	222
4	△ 1	36	253	△ 1	29	192
5	1	31	224	△ 1	24	167
6	21	33	214	14	26	155
7	88	31	271	88	24	219
8	56	30	297	49	23	245
9	22	32	287	22	25	242

資料：農林水産省生産局調査。

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 総計は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。なお国用製糸及び玉糸製糸は乾繭重量調査のため、乾繭歩合42%にて生繭重量に換算した。

3. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. The grand total includes the material cocoons at the machine-reeling mills, reelers of raw silk for

(14) 器械製糸工場の操業状況

Activities of Machine Reeling Mills

項 目 Item 年 月 Year & Month	運轉工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
		運轉可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year						
2002	7	607	414	68	290	207
2003	6	444	285	64	290	173
2004	5	426	262	62	292	165
2005	2	203	126	62	269	83
2006	2	114	94	82	266	59
2007	2	112	93	83	266	57
2008	2	112	90	80	266	54
2007 — 8 9 10 11 12 2008 — 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 2009 — 1 2 3 4 5 6 7 8 9	2	112	92	82	21	55
	2	112	89	79	22	56
	2	112	92	82	24	60
	2	112	96	86	22	58
	2	112	94	84	22	57
	2	112	95	85	20	58
	2	112	94	84	22	57
	2	112	96	86	22	58
	2	112	100	89	23	60
	2	112	100	89	22	60
	2	112	95	85	23	60
	2	112	92	82	23	60
	2	112	91	81	21	56
	2	112	84	75	23	55
	2	112	87	78	24	55
	2	112	94	84	21	52
	2	112	90	80	22	54
	2	112	91	81	20	50
	2	118	89	75	21	54
	2	118	90	76	22	54
	2	118	86	73	22	50
	2	118	77	65	20	45
	2	118	77	65	23	49
	2	118	72	61	23	49
	2	118	75	64	20	49
	2	118	77	65	22	49

資 料：農林水産省生産局調査。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(15) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	総計 Grand Total	一般在庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計	製糸工場	生糸市場	生糸市場外	生糸輸出	受入	引渡	在庫数量
		Total	Filatures Mills	Dealers	Domestic Dealers	Ex and Importers	Accepts	Deliveries	Ending Stocks
暦年 Calendar Year									
2002	25,955	5,932	1,358	605	3,772	197	31,702	31,809	20,023
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
生糸年度 Silk Year									
2002	26,794	6,771	1,837	445	4,207	282	30,510	30,617	20,023
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
2008 — 8	5,320	5,320	310	15	4,126	869			
9	5,384	5,384	302	15	4,179	888			
10	4,963	4,963	312	15	3,799	837			
11	4,786	4,786	296	15	3,687	788			
12	4,584	4,584	310	15	3,536	723			
2009 — 1	4,574	4,574	322	15	3,461	776			
2	4,210	4,210	329	10	3,261	610			
3	4,362	4,362	333	10	3,366	653			
4	4,205	4,205	361	15	3,248	581			
5	4,158	4,158	376	15	3,266	501			
6	3,841	3,841	382	15	3,056	388			
7	3,898	3,898	381	15	3,062	440			
8	4,060	4,060	362	15	3,156	527			
9	4,221	4,221	345	15	3,274	587			

資料：農林水産省生産局調査。

備考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks：Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(16)蚕糸関係品目別輸入状況(平成16年～21年9月)

Breakdown of Silk-Related Products Imports (2004～Sept 2009)

	単位 Unit	平成21年(2009)		平成20年	平成19年	平成18年	平成17年	平成16年	20年/19年
		(9月) Sept	(累計) Accumulated Total	(2008)	(2007)	(2006)	(2005)	(2004)	2008/07 (%)
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	1,174	8,171	15,242	12,858	21,148	22,915	25,419	118.5
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,525	12,036	22,636	19,439	31,524	32,699	29,745	116.4
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	—	34	317	333	430	520	934	95.2
繭 Cocoon	kg	—	9,000	4,000	13,750	18,565	16,300	203,604	14.0
真綿 Floss Silk	kg	—	—	29,071	28,660	34,176	45,186	25,320	101.4
ペニール Peigne	kg	2,568	35,331	2,770	6,336	19,760	15,068	14,952	43.7
くず繭 Waste Cocoon	kg	3,883	17,197	23,770	17,184	1,020	3,650	6,797	138.3
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	202,220	242,082	234,894	216,422	293,373	83.5
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	5,855	84,833	193,125	238,507	255,951	319,072	267,341	81.0
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	12,306	137,361	450,956	532,769	545,801	878,398	607,783	84.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other	kg	10,284	265,738	526,662	608,270	756,065	847,200	781,454	86.6
絹紡紬糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	11,644	69,705	143,585	117,265	208,913	202,901	244,557	122.4
絹織物 Silk Fabrics	m ²	603,160	6,783,523	11,540,335	11,355,333	12,989,059	15,999,327	13,127,009	101.6

資料：財務省関税局

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(17) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国 名 Country 年 月 Year & Month 暦 年 Calendar Year		計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
		Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
2006		21,148 (174)	14,740 (101)	6,181 (68)	5 (5)	222 (-)	-
2007		12,858 (149)	8,804 (124)	3,848 (25)	-	206 (-)	-
2008		15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	-
生糸年度 Silk Year							
2006		13,460 (166)	8,385 (119)	4,454 (42)	5 (5)	174 (-)	-
2007		16,185 (93)	11,410 (69)	4,607 (24)	-	168 (-)	-
2008		12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-
2007 - 9		1,289 (23)	933 (23)	308	-	48	-
10		1,890 (5)	1,005	863 (5)	-	22	-
11		1,443 (5)	1,109 (5)	307	-	27	-
12		868 (21)	623 (21)	220	-	25	-
2008 - 1		1,041 (8)	824	213 (8)	-	4	-
2		849 (5)	580 (5)	267	-	2	-
3		1,484 (14)	1,036 (10)	448 (4)	-	-	-
4		505	314	191	-	-	-
5		3,574 (29)	2,542 (20)	1,026 (9)	-	6	-
6		1,362 (5)	1,128	233 (5)	-	1	-
7		1,517 (21)	1,090 (21)	407	-	20	-
8		1,129 (29)	726 (15)	385 (14)	-	18	-
9		1,135 (21)	906 (21)	212	-	17	-
10		1,280	913	347	-	20	-
11		682 (5)	512	151 (5)	-	20	-
12		684 (10)	397 (10)	272	-	14	-
2009 - 1		1,004	693	309	-	2	-
2		516	195	321	-	-	-
3		921 (7)	820 (7)	97	-	5	-
4		529 (10)	333 (10)	181	11	5	-
5		1,379 (5)	859 (5)	520	-	-	-
6		800	636	162	-	2	-
7		927	842	79	-	6	-
8		921	819	96	-	7	-
9		1,174	890	284	-	-	-

資 料：財務省関税局調査

備 考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.
2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(18) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
	2005	32,700	292	18,977	7,550	7	—	5,867	6
	2006	31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3
	2007	19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
	2008	22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
生糸年度 Silk Year									
	2005	36,113	143	21,337	8,983	18	—	5,621	8
	2006	21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3
	2007	22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
	2008	18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2007	— 9	1,935	—	1,239	520	—	—	176	—
	10	2,222	—	1,224	638	1	—	358	—
	11	1,989	—	1,136	567	2	—	281	4
	12	1,667	—	930	371	0.4	—	365	—
2008	— 1	2,021	—	1,236	447	0	—	338	0
	2	1,769	—	853	746	0	—	170	0
	3	1,689	7	871	418	1.0	—	390	2
	4	2,220	—	1,187	660	5	—	366	2
	5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2
	6	2,087	23	1,302	600	—	—	161	1
	7	2,459	—	1,502	555	2	—	400	—
	8	2,311	—	1,275	753	1	—	282	—
	9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5
	10	1,451	—	781	462	—	—	208	—
	11	1,518	—	645	687	—	—	186	1
	12	1,065	—	609	279	2	—	174	1
2009	— 1	1,281	—	842	278	—	—	159	2
	2	801	—	253	463	—	—	65	19
	3	1,213	—	734	300	3	—	176	—
	4	1,459	—	959	317	—	—	148	35
	5	1,092	—	672	362	2	—	57	—
	6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
	7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
	8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
	9	1,525	—	911	447	4	—	106	58

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(19) 織物生産数量
Fabric Production

(単位 : 1,000m²)
(Unit : 1,000sq. meters.)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	綿織物 Cotton Fabrics	絹織物 Silk Fabrics	絹紡織物 Spun Silk Fabrics	合成繊維 織物 Synthetic FiberFabrics	人絹織物 Rayon Filament and Acetate Fabrics	ビスコース スフ織物 Viscose sta- ple fabrics	毛織物 Wool Fabrics	麻織物 Bast Fiber Fabrics
暦 年 Calendar Year										
2002		2,162,818	539,764	26,824	1,054	1,292,617	69,544	141,816	88,114	3,085
2003		2,031,053	506,696	23,940	728	1,217,413	71,711	129,178	78,071	3,318
2004		1,974,731	479,246	21,970	753	1,209,640	67,540	116,294	75,662	3,326
2005		1,837,703	425,460	19,816	579	1,146,845	66,231	101,235	72,531	5,006
2006		1,736,816	399,697	17,122	1,384	1,082,896	64,509	95,783	70,817	4,608
2007		1,699,291	367,733	14,262	1,204	1,096,107	63,714	85,308	67,590	3,372
2008		1,553,767	326,954	12,791	1,252	1,008,457	60,582	79,928	60,712	3,091
2007 —	4	143,211	31,386	1,241	95	91,268	5,240	7,960	5,640	382
	5	139,291	31,264	1,150	95	89,177	5,183	6,262	5,912	247
	6	143,181	31,427	1,275	98	91,959	5,338	6,963	5,922	200
	7	145,873	31,229	1,200	97	94,825	5,438	6,909	5,958	217
	8	135,738	28,823	1,036	93	88,065	5,167	6,445	5,949	161
	9	138,732	28,451	1,209	125	91,069	5,191	6,904	5,591	192
	10	145,544	29,580	1,181	111	96,040	5,567	6,863	5,974	228
	11	143,797	29,178	1,217	98	94,956	5,419	6,924	5,748	257
	12	141,698	29,412	1,196	101	93,350	5,368	6,652	5,184	436
2008 —	1	133,067	26,568	994	107	89,112	5,070	6,129	4,759	330
	2	139,973	28,262	1,198	102	92,685	5,468	7,220	4,813	226
	3	141,922	28,510	1,178	103	94,709	5,520	6,804	4,890	208
	4	139,796	28,146	1,097	103	92,890	5,553	6,518	5,135	354
	5	130,923	27,563	1,110	101	84,940	5,252	6,587	5,128	253
	6	132,067	27,370	1,159	104	85,408	5,300	6,916	5,602	207
	7	127,748	27,577	1,085	99	81,040	5,341	6,766	5,613	227
	8	118,610	25,975	931	97	75,181	4,668	6,393	5,186	179
	9	124,690	26,194	1,031	125	81,707	4,696	6,507	5,249	182
	10	125,446	27,066	1,010	113	80,493	4,709	6,675	5,149	232
	11	121,721	26,754	1,025	102	77,375	4,609	6,749	4,843	263
	12	117,803	26,970	982	96	73,917	4,397	6,663	4,347	430
2009 —	1	104,401	23,096	729	87	67,408	3,916	5,247	3,667	251
	2	99,387	21,064	879	85	63,883	3,647	6,116	3,550	164
	3	93,091	19,946	847	85	60,655	2,653	5,577	3,187	141
	4	87,492	18,426	792	42	57,489	2,015	5,346	3,154	228
	5	83,008	17,832	747	42	54,352	1,284	5,171	3,015	164
	6	84,518	16,379	806	44	56,652	1,995	5,546	2,970	124
	7	85,647	16,247	769	42	57,433	2,435	5,397	3,219	107
	8	81,133	16,297	685	38	52,996	2,367	5,494	3,187	70
	9	85,055	16,879	756	40	56,421	2,215	5,523	3,146	75

資 料 : 経済産業省調査。

備 考 : 交織を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks : Mixed fabrics included.

(20) 絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics by Silk and Rayon Weavers

(単位：1,000m²)

(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
1997	52,031	19,104	9,311	5,764	4,029	20,614	15,998	4,616	12,313
1998	38,673	14,507	7,124	3,963	3,420	15,940	11,792	4,149	8,225
1999	33,425	11,032	5,360	2,877	2,796	15,745	11,562	4,182	6,649
2000	32,275	11,192	5,556	3,410	2,226	14,028	10,010	4,018	7,054
2001	29,801	10,933	5,518	3,365	2,049	12,664	8,842	3,822	6,205
2002	26,715	10,277	4,355	3,251	2,673	11,855	8,030	3,824	4,582
2003	23,822	8,371	3,800	2,464	2,107	11,399	7,653	3,747	4,053
2004	21,859	7,540	3,510	2,190	1,842	10,809	7,346	3,463	3,509
2005	19,698	6,664	2,965	1,903	1,800	10,181	6,900	3,280	2,852
2006	18,153	6,104	2,734	1,728	1,646	9,194	5,882	3,312	2,855
2007	15,182	5,214	2,276	1,547	1,392	7,575	4,578	2,997	2,392
2008	13,661	4,781	2,061	1,419	1,301	6,800	4,170	2,631	2,080
2007 — 5	1,225	440	192	124	124	585	337	248	200
6	1,354	461	194	139	129	683	428	255	210
7	1,276	445	186	138	121	647	391	256	184
8	1,108	392	169	124	99	554	315	239	162
9	1,286	427	187	134	106	661	423	238	197
10	1,262	423	189	122	111	629	377	252	210
11	1,297	451	191	132	127	645	399	245	201
12	1,274	435	187	136	112	639	400	238	200
2008 — 1	1,070	394	180	114	100	501	270	231	175
2	1,269	422	183	129	110	644	407	237	203
3	1,241	419	184	125	110	634	402	232	188
4	1,171	419	189	122	108	585	360	225	167
5	1,176	421	187	121	113	579	353	226	176
6	1,240	429	190	125	114	630	403	227	181
7	1,157	400	177	113	110	562	343	219	195
8	998	337	152	95	89	507	301	205	155
9	1,100	364	156	101	107	555	342	213	182
10	1,084	385	149	123	114	538	322	216	161
11	1,094	403	158	128	117	542	343	199	149
12	1,049	391	155	124	112	524	325	199	135
2009 — 1	790	283	109	92	83	395	209	186	111
2	939	307	104	104	99	503	317	186	128
3	911	298	108	90	99	491	295	197	122
4	814	281	111	93	77	434	290	144	99
5	768	260	106	87	66	408	265	143	100
6	829	272	110	89	72	445	298	146	113
7	790	259	104	85	69	418	273	145	113
8	699	230	98	80	51	382	256	126	88
9	722	246	98	85	63	419	288	132	107

資 料：経済産業省調査。

(21) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item 年月 Year & Month	絹人絹織物製造業者の 絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2002	26,715	89.6	1,179,219	95.1	229,272	83.7	998,239	79.1
2003	23,822	89.2	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,859	91.8	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,698	90.1	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,153	92.2	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,182	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	13,661	90.0	656,889	92.2	88,401	90.9	867,559	88.7
2007 — 5	1,225	79.6	50,444	66.2	7,760	56.3	71,255	139.4
6	1,354	82.4	69,024	77.2	7,169	70.0	84,513	180.8
7	1,276	83.3	61,873	80.3	7,237	69.3	88,894	169.1
8	1,108	82.2	47,776	81.9	6,078	68.9	89,497	211.9
9	1,286	87.4	69,062	92.9	8,439	111.1	70,350	203.0
10	1,262	87.5	58,668	84.8	9,400	100.7	60,982	161.7
11	1,297	94.5	63,195	97.0	8,207	93.1	78,005	154.9
12	1,274	93.0	62,144	89.7	8,097	89.9	67,462	144.6
2008 — 1	1,070	92.4	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,269	96.7	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,241	93.4	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,171	88.9	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,176	96.0	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,240	91.6	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,157	90.7	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	998	90.1	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,100	85.5	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,084	85.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,094	84.3	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,049	82.3	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 — 1	790	73.8	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	939	74.0	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	911	73.4	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	814	69.5	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	768	65.3	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	829	66.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	790	68.3	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	699	70.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	722	65.6	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10			40,356	80.7	6,027	77.1		

資 料 : 「絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量」は経済産業省調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考 : 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan.2006, sash livings are included in sash production.

(22)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)	(円) Yen	前年 比(%)
暦年Calendar Year												
2003	302,623	▲ 1.1	13,967	▲ 4.1	520	21.2	5,478	▲ 4.0	2,889	▲ 2.7	1,272	▲ 4.9
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2007 - 8	296,035	1.6	9,965	0.7	516	109.3	3,166	▲ 10.0	2,284	▲ 5.8	1,021	▲ 2.4
9	281,448	3.2	9,858	▲ 4.0	199	▲ 31.0	3,579	▲ 4.0	2,125	▲ 7.0	986	3.0
10	296,984	0.6	13,481	▲ 2.8	244	▲ 59.7	5,212	▲ 2.0	2,948	▲ 1.3	1,315	10.6
11	282,836	▲ 0.6	14,292	▲ 0.5	504	185.8	5,773	▲ 9.0	2,692	0.1	1,460	10.9
12	351,667	2.2	14,816	▲ 5.8	130	▲ 57.8	6,162	▲ 4.4	2,860	▲ 2.6	1,566	▲ 8.0
2008 - 1	309,826	3.6	13,981	▲ 5.6	504	35.0	6,212	▲ 3.9	2,768	▲ 7.1	1,079	▲ 1.9
2	275,565	0.0	10,215	▲ 2.7	308	▲ 41.6	4,351	▲ 6.4	1,864	▲ 1.9	894	11.2
3	312,565	▲ 1.6	14,035	▲ 0.8	128	▲ 75.0	6,445	▲ 2.6	2,482	5.3	957	8.4
4	310,695	▲ 2.7	12,778	▲ 4.1	86	▲ 52.5	4,965	▲ 7.7	2,509	▲ 3.9	984	▲ 2.5
5	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7
6	281,951	▲ 1.8	11,894	▲ 13.8	123	▲ 70.1	4,206	▲ 10.0	2,934	▲ 16.7	1,081	▲ 19.8
7	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing & footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts & sweaters, underwear and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2002年	2003年	2004年
		トン	トン	トン
日本	Japan	880	780	683
中国	China	545,497	480,774	547,091
インド	India	128,000	117,000	120,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	10,238	9,966	8,005
タイ	Thailand	3,473	10,500	10,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,500	3,200	3,200
インドネシア	Indonesia	691		
トルコ	Turkey	100	169	169
ブルガリア	Bulgaria	50	0.3	20
ギリシャ	Greece	60	60	70
フィリピン	Philippines	28	23	22
主要国の計	Total	733,517	663,472	730,910

区 分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,000	135,000	150,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
インドネシア	Indonesia			
トルコ	Turkey	170	350	130
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
主要国の計	Total	809,722	937,006	983,059

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド纖維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2002年		2003年		2004年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	391	6,500	287	4,800	263	4,400
中国	China	73,585	1,226,400	83,763	1,396,100	80,231	1,337,200
インド	India	14,617	243,600	13,970	232,800	14,620	243,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,607	26,800	1,563	26,100	1,512	25,200
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,500	25,000	1,420	23,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	630	10,500	500	8,300	500	8,300
インドネシア	Indonesia	91	1,500				
トルコ	Turkey	17	300	28	500	28	500
ブルガリア	Bulgaria	7	100	0	0	3	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4.5	100
フィリピン	Philippines	3	100	3	100	3	100
主要国の計	Total	95,802	1,596,700	104,968	1,749,600	101,935	1,699,100

区 分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	18,320	305,300
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
インドネシア	Indonesia						
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	0	0
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
主要国の計	Total	109,848	1,830,800	115,926	1,932,300	132,457	2,207,500

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan (since 2002) are not reported, they are taken as the same amount as previous year because they constitute high proportion of total.

(3) 中国省別桑園面積・家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数

Mulberry Farm Area, Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	桑園面積 Mulberry Farm Area (10,000ha, %)			家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2005	2006	対前年比 2006/05	2006	2007	対前年比 2007/06	2006	2007	対前年比 2007/06
山 西	Shanxi	0.82	1.10	135	5,602	5,800	104	175	130	74
上 海	Shanghai	0.03	-	-	-	-	-	-	-	-
江 蘇	Jiangsu	9.08	8.98	99	117,800	104,119	88	20,186	22,000	109
浙 江	Zhejiang	7.04	7.40	105	85,122	83,900	99	19,051	18,500	97
安 徽	Anhui	4.67	5.47	117	37,596	38,100	101	4,038	5,200	129
江 西	Jiangxi	1.63	1.90	116	12,110	12,400	102	1,676	2,500	149
山 東	Shandong	5.00	5.00	100	39,700	40,500	102	6,253	7,200	115
河 南	Henan	2.20	2.73	124	13,390	13,700	102	318	110	35
湖 北	Hubei	2.53	2.79	110	15,706	15,800	101	536	470	88
湖 南	Hunan	0.61	0.69	112	4,100	4,200	102	50	60	120
広 東	Guangdong	2.53	5.33	211	68,750	81,127	118	1,138	1,400	123
広 西	Guangxi	9.40	12.00	128	185,000	205,163	111	8,020	11,000	137
重 慶	Chongqing	7.93	7.93	100	23,828	24,800	104	6,490	7,800	120
四 川	Sichuan	10.67	10.67	100	77,800	83,700	108	21,914	28,000	128
貴 州	Guizhou	0.58	0.63	108	1,254	2,532	202	-	-	-
雲 南	Yunnan	5.27	6.25	119	31,477	36,600	116	1,335	1,640	123
陝 西	Shaanxi	4.80	5.00	104	18,498	24,600	133	1,657	2,300	139
甘 肅	Gansu	0.62	0.65	104	613	500	82	-	-	-
寧 夏	Ningxia	0.28	0.33	120	475	500	105	59	50	85
新 疆	Xinjiang	0.50	0.73	145	895	200	22	-	-	-
内 蒙 古	Inner Mong	-	-	-	-	-	-	208	60	28.80
合 計	Total	76.20	85.57	112	739,715	779,261	105	93,105	108,420	116

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	対比 2008/06
702	682	97(%)

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1996年～2007年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	前年比 07/06(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	
山 西	Shanxi	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai									0.0	0.0			
江 蘇	Jiangsu	9.2	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	88.1
浙 江	Zhejiang	8.4	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	98.9
安 徽	Anhui	2.4	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	100.0
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.8	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	100.0
山 東	Shandong	4.1	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	100.0
河 南	Henan	1.3	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	107.7
湖 北	Hubei	1.2	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	100.0
湖 南	Hunan	0.2	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.2	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	117.4
広 西	Guangxi	1.7	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	110.8
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing			2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	104.2
四 川	Sichuan	12.2	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	107.7
貴 州	Guizhou	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	119.4
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	138.9
甘 肅	Gansu									0.1	0.1	0.1	0.1	100.0
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia									0.0	0.0	0.0	0.0	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
合 計	Total	47.1	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	105.4

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(5)中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2008年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	8,376,916	95.61	198.655	95.74
2 ルーマニア	Romania	1,122,194	229.25	30.163	247.36
3 イタリア	Italy	829,113	84.23	23.391	89.00
4 日本	Japan	662,460	85.26	19.222	89.26
5 ベトナム	Vietnam	628,784	130.28	16.504	137.62
6 韓国	South Korea	561,080	62.02	14.868	61.67
7 パキスタン	Pakistan	246,913	93.97	5.794	92.99
8 バングラデッシュ	Bangladesh	193,213	83.00	4.502	82.55
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	154,721	67.92	3.735	67.63
10 タイ	Thailand	77,128	99.45	2.000	96.87
11 その他	Others	578,870	104.72	14.901	104.65
合計	Total	13,431,394	97.66	333.735	99.00

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 イタリア	Italy	916,759	132.94	28.804	137.47
2 日本	Japan	627,903	140.56	20.108	143.90
3 インド	India	542,905	113.77	14.939	117.53
4 パキスタン	Pakistan	416,968	112.40	11.742	114.35
5 ドイツ	Germany	395,690	79.76	13.803	80.10
6 タイ	Thailand	211,670	174.92	6.409	180.18
7 トルコ	Turkey	63,941	148.93	2.429	140.48
8 インドネシア	Indonesia	48,415	137.44	1.315	145.49
9 韓国	South Korea	43,601	37.36	1.485	39.64
10 香港	Hong Kong	30,381	828.27	0.960	791.71
11 その他	Others	107,761	62.71	3.921	96.88
合計	Total	3,405,994	114.36	105.915	116.44

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics (>85%Silk)			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1 インド	India	58,533,788	79.44	139.041	79.72
2 イタリア	Italy	44,916,778	138.52	144.278	131.10
3 香港	Hong Kong	27,767,378	94.40	122.817	97.18
4 パキスタン	Pakistan	20,415,584	99.70	41.814	99.23
5 韓国	South Korea	20,317,354	97.82	79.553	102.23
6 日本	Japan	13,594,742	99.07	37.482	103.06
7 アメリカ	United States	8,349,317	88.03	48.281	86.79
8 シンガポール	Singapore	7,180,679	93.89	19.236	79.86
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	6,901,548	124.54	22.457	70.65
10 マレーシア	Malaysia	6,756,442	186.33	23.028	200.41
11 その他	Others	34,603,876	121.03	125.775	120.81
合計	Total	249,337,487	101.22	803.762	104.13

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2009年1月～10月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	5,159,175	71.51	124.400	71.93
2 韓国	South Korea	412,150	76.62	11.273	79.11
3 日本	Japan	372,707	59.60	10.411	57.28
4 ベトナム	Vietnam	235,075	38.53	6.362	39.56
5 イタリア	Italy	195,272	25.97	5.590	26.30
6 ルーマニア	Romania	173,826	17.45	4.505	16.69
7 バングラデッシュ	Bangladesh	131,269	94.98	3.233	282.90
8 シンガポール	Singapore	128,424	273.11	3.163	95.06
9 パキスタン	Pakistan	125,972	68.12	2.944	65.64
10 ミャンマー	Myanmar	54,558	39.12	1.249	147.05
11 その他	Others	196,126	30.66	5.045	28.93
合計	Total	7,184,554	60.99	178.175	60.16

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	2,127,634	481.73	52.587	426.26
2 日本	Japan	480,775	84.81	14.343	79.45
3 パキスタン	Pakistan	390,273	118.59	10.573	41.03
4 イタリア	Italy	356,415	43.45	10.558	112.89
5 ドイツ	Germany	266,738	75.27	8.355	67.41
6 韓国	South Korea	161,791	542.52	4.548	417.03
7 タイ	Thailand	77,943	40.39	2.296	39.38
8 シンガポール	Singapore	68,559	301.72	1.753	43.47
9 インドネシア	Indonesia	66,850	165.09	1.591	265.67
10 ベトナム	Vietnam	55,201	1100.94	1.367	568.40
11 その他	Others	148,017	99.22	4.132	75.13
合計	Total	4,200,196	142.27	112.103	121.47

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2009年実績	09/08(%)	2009年実績	09/08(%)
1 インド	India	54,273,082	107.65	129.833	108.06
2 パキスタン	Pakistan	32,590,337	212.22	86.024	71.24
3 イタリア	Italy	30,256,680	79.88	62.206	193.48
4 韓国	South Korea	14,027,363	81.58	57.113	57.18
5 香港	Hong Kong	13,047,758	57.60	51.818	76.76
6 日本	Japan	9,367,695	78.72	29.260	202.41
7 シンガポール	Singapore	8,581,421	147.69	26.900	142.57
8 マレーシア	Malaysia	8,169,926	148.39	24.296	120.73
9 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	7,796,093	125.61	24.228	57.69
10 アメリカ	United States	4,372,463	59.64	24.127	74.28
11 その他	Others	28,044,825	95.97	92.963	86.91
合計	Total	210,527,643	100.49	608.768	90.14

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)	暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985/86	11,353	1985	1,553,776	25,896
1986/87	10,575	1986	1,663,976	27,733
1987/88	11,830	1987	1,658,375	27,640
1988/89	11,470	1988	1,748,996	29,150
1989/90	15,829	1989	1,696,622	28,277
1990/91	17,221	1990	1,693,206	28,220
1991/92	17,586	1991	2,077,155	34,619
1992/93	19,134	1992	2,296,053	38,268
1993/94	18,260	1993	2,325,809	38,763
1994/95	16,260	1994	2,535,440	42,257
1995/96	15,368 (95%)	1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996/97	14,811 (96%)	1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997/98	14,594 (99%)	1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998/99	10,305 (71%)	1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999/2000	8,473 (82%)	1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000/01	9,916 (117%)	2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001/02	10,238 (103%)	2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002/03	9,966 (97%)	2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003/04	8,005 (80%)	2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004/05	7,146 (89%)	2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005/06	8,051 (113%)	2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006/07	8,617 (107%)	2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007/08	6,266 (73%)	2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008/09	4,835 (77%)	2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009/10 〔見込み〕 〔Estimate〕	4,586 (95%)	2009 〔見込み〕 〔Estimate〕	850,000 (72%)	14,167

資料: ブラジル製糸協会

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2009年10月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of October 2009.

(7) ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況

Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn and Secondary Silk Yarn in Brazil

単位：ト, ()内は60kg俵

Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg

区分		2003年 実績	2004年 実績	2005年 実績	2006年 実績	2007年 実績	2008年 実績	2009年予測 forecast	09/08 (%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,500)	106 (1,767)	118 (1,967)	72 (1,200)	84 (1,400)	70 (1,167)	56 (933)	80.0
	輸出 Export	1,057 (17,617)	837 (13,950)	676 (11,267)	782 (13,033)	876 (14,600)	721 (12,017)	624 (10,400)	86.5
	計 Total	1,147 (19,117)	943 (15,717)	794 (13,233)	854 (14,233)	960 (16,000)	791 (13,183)	680 (11,333)	86.0
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,283)	71 (1,183)	92 (1,533)	74 (1,233)	78 (1,300)	89 (1,483)	79 (1,317)	88.8
	輸出 Export	431 (7,183)	516 (8,600)	454 (7,567)	392 (6,533)	274 (4,567)	274 (4,567)	145 (2,417)	52.9
	計 Total	508 (8,467)	587 (9,783)	546 (9,100)	466 (7,767)	352 (5,867)	363 (6,050)	224 (3,733)	61.7
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,783)	177 (2,950)	210 (3,500)	146 (2,433)	162 (2,700)	159 (2,650)	135 (2,250)	84.9
	輸出 Export	1,488 (24,800)	1,353 (22,550)	1,130 (18,833)	1,174 (19,567)	1,150 (19,167)	995 (16,583)	769 (12,817)	77.3
	計① Total①	1,655 (27,583)	1,530 (25,500)	1,340 (22,333)	1,320 (22,000)	1,312 (21,867)	1,154 (19,233)	904 (15,067)	78.3
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	76	49	64.5
	輸出 Export	217	386	295	241	256	182	147	80.8
	計② Total②	481	509	338	325	328	258	196	76.0
	②/①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	22.4	21.7	

資料：ブラジル製糸協会

注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。

Source: ABRASSEDA

Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2010 年 1 月号 NO.10 平成 22 年 1 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず